

令和5年度

教育委員会

教育行政点検・評価報告書

(対象：令和4年度事業)

防府市教育委員会

令和5年 9月

は　じ　め　に

近年、急速に進む人口減少・高齢化や技術革新・グローバル化の進展など子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。さらに今後の社会は、人生100年時代を迎えようとしており、また、超スマート社会の実現に向けた技術革新が急速に進んでいます。

こうした中、防府市教育委員会は、令和3年3月に策定された「第5次防府市総合計画」に合わせて、社会情勢の変化や施策の進捗状況を踏まえ「第2次防府市教育振興基本計画」を策定しました。

「第2次防府市教育振興基本計画」では、本市教育のめざす姿として「めざすまちの姿」と「めざす人の姿」の2つを掲げ、「21世紀をたくましく生き抜く人材の育成」を基本目標とし、5つの施策の柱に基づいた基本施策を定め、その施策に沿った取組を実施することとしています。

防府市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、令和4年度の基本施策の主な取組の執行状況について、「第2次防府市教育振興基本計画」の施策体系に沿って自己評価を行い、学識経験者をはじめとする3人の外部評価者から意見を求め、教育行政点検・評価報告書を作成しました。

本市における教育の基本施策に沿った各取組がどのように展開され、どのような進捗状況にあるのかを、この報告書を公表することにより、市民への説明責任を果たすとともに、市民に信頼される教育行政の推進を図ってまいります。

目 次

■ 点検・評価基準について	1
■ 令和4年度事業 評価結果	7
I 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進	
II 地域ぐるみの教育の推進	
III 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進	
IV 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進	
V 郷土の文化・伝統の継承と創造の推進	

<基本施策の評価>

I 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進	
① キャリア教育の推進	13
② 確かな学力の育成	15
③ 社会の変化に対応した教育の充実	16
④ ICT環境の整備と学習活動の充実	17
⑤ 学校図書館の充実と読書活動の推進	19
⑥ 心の教育の充実	20
⑦ 生徒指導・相談体制の充実	21
⑧ 健康教育の推進	22
⑨ 安全・安心な学校給食の推進	23
⑩ 特別支援教育の充実	24
⑪ 幼児教育の充実	26
II 地域ぐるみの教育の推進	
① 地域とともにある学校づくりの推進	27
② 青少年の健全育成	28

Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進	
① 生涯学習機会の充実	30
② 生涯学習を支える人材の育成と活用	32
③ 人権学習の推進	33
④ 生涯学習の拠点となる施設の充実	34
⑤ 図書館の充実と読書活動の推進	35
Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進	
○ 安全・安心な施設整備、教育環境の確保	37
○ 学校安全の推進	38
○ 校種間連携・小中一貫教育の推進	40
○ 教育機会の確保	41
○ 学校における働き方改革の推進	42
○ 教職員の資質能力の向上	43
Ⅴ 郷土の文化・伝統の継承と創造の推進	
○文化財の保存	44
○文化財の活用	46

■ 学識経験者の総評	48
------------	----

■ 点検・評価基準について

1 点検・評価の目的

第2次防府市教育振興基本計画（以降「基本計画」）の基本施策に沿って、広範かつ専門的な教育行政事務が効果的に執行されているかを自らが事後にチェックし、その活動を改善するとともに市民に対する説明責任を果たすことを目的とします。

2 点検・評価の対象

基本計画に掲げる基本施策の事務事業の実施状況とします。

3 点検・評価の方法

基本計画に掲げる5つの基本施策について、事業実施状況（実績等）を踏まえ評価を行いました。

まず、各基本施策の主な取組ごとに、前年度の実施状況（実績や課題等）を元に、「到達度」、「事業効果」、「効率性」、「方向性」の視点から評価し、評点の合計により取組状況を4段階で示しました。次に、その取組状況と目標指数の達成状況から総合的に判断し、基本施策の評価を行いました。

《事務事業の評価の視点と点数》

評価	到達度	事業効果	効率性	方向性
評価の視点 点数	・事務や事業の達成状況 ・課題等への対応状況	・事業の有効性 ・本市教育への寄与度合	・投入資源（経費、人材、時間）の妥当性 ・経費削減の工夫	・今後の事業展開方針
4点	事業を計画どおり実施し、事業の課題や改善策、懸案事項について十分な対応ができた。	事業効果が非常に高く、他事業にも良好な波及効果を生じさせた。	経費削減の工夫がなされ、費用対効果が高かった。	有益な事業であるため、今後、事業を拡充して実施する
3点	概ね計画どおりに事業を実施できた。	事業実施により期待どおりの事業効果があった。	事業内容に相応の投入資源で、効率的に事業を実施できた。	今後も継続して事業を実施する。 又は、事業目的を達成したため事業を終了する。
2点	事業の実施状況にやや不十分な面があった。	期待していた事業効果にはやや達しなかった。	一定の事業効果を得るために必要以上の投入資源を要した。	事業内容の見直しが必要である。 又は、今後、事業を縮小する。
1点	計画していた事業の一部しか実施できなかった。	事業効果が低かった。	事業の効率性が低かった。	今後、事業を廃止する。

《事務事業の取組状況》

取組状況	評価点数の合計
AA	15 点以上
A	14～12 点
B	11～9 点
C	8～4 点

《基本施策の評価目安》

評価	評価の判断
優良	計画・目標を上回る成果を得たとき
良好・順調	計画・目標どおりの成果を得たとき
努力	計画・目標を若干下回る成果を得たとき
反省	計画・目標を大幅に下回る成果を得たとき

第2次防府市教育振興基本計画 施策の体系

施策の柱	基本施策
I 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進	①キャリア教育の推進
	②確かな学力の育成
	③社会の変化に対応した教育の充実
	④ICT環境の整備と学習活動の充実
	⑤学校図書館の充実と読書活動の推進
	⑥心の教育の充実
	⑦生徒指導・相談体制の充実
	⑧健康教育の推進
	⑨安全・安心な学校給食の推進
	⑩特別支援教育の充実
	⑪幼児教育の充実
II 地域ぐるみの教育の推進	①地域とともにある学校づくりの推進
	②青少年の健全育成

主 な 取 組	担当課
◆計画的な進路指導の充実	学校教育課
◆小・中・高連携によるキャリア教育の推進	学校教育課
◆体験的な学習活動の推進	学校教育課
◆小・中の連携及び家庭・地域との連携強化	学校教育課
◆志を抱かせる教育の推進	学校教育課
◆児童生徒の実態に応じた指導計画の作成	学校教育課
◆指導体制の充実	学校教育課
◆「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善の推進	学校教育課
◆学習習慣の確立	学校教育課
◆英語教育の充実	学校教育課
◆プログラミング教育の充実	学校教育課
◆環境教育の充実	学校教育課
◆高速大容量ネットワーク通信環境の整備とタブレット端末の配備	学校教育課
◆大型提示装置の整備	学校教育課
◆ICT活用のための多様な人材活用	学校教育課
◆教職員研修の充実	学校教育課
◆多様な学習活動の推進	学校教育課
◆読書・学習活動の充実	学校教育課
◆関係機関との連携による学校図書館活動の充実	教育総務課
◆学校司書の配置	教育総務課
◆道徳教育の充実	学校教育課
◆体験活動の充実	学校教育課
◆人権教育の充実	学校教育課
◆伝統や文化に関する教育の充実	学校教育課
◆開発的な生徒指導の推進	学校教育課
◆学校内外と連携した問題行動への対応	学校教育課
◆きめ細かな不登校対策の推進	学校教育課
◆緊急時等の学校への支援体制の充実	学校教育課
◆体力向上のための望ましい運動習慣の定着	学校教育課
◆健康な生活を送ろうとする実践力を育てる指導の充実	学校教育課
◆食に関する指導の充実	学校教育課
◆食育の推進	学校教育課
◆使用食材の安全性確保と地産地消の推進	学校教育課
◆食物アレルギーへの対応	学校教育課
◆安全・安心な給食の提供	学校教育課
◆早期からの切れ目のない支援体制の充実	学校教育課
◆特別支援教育の視点を取り入れた通常の学級の授業改善	学校教育課
◆特別支援学級における教育の充実	学校教育課
◆校内教育支援体制の充実	学校教育課
◆特別支援教育に関する広報活動の充実	学校教育課
◆幼保・小の連携の推進	学校教育課
◆子育てに関する相談体制の充実	学校教育課
◆乳幼児機関への支援の充実	学校教育課
◆コミュニティ・スクールの円滑な運営	学校教育課
◆地域協育ネットの推進	生涯学習課
◆広報活動の充実	学校教育課
◆家庭教育機能の強化	生涯学習課
◆非行・問題行動の防止活動や有害な環境の改善活動	生涯学習課
◆青少年活動の推進	生涯学習課
◆子どもの安全・安心対策	生涯学習課

施 策 の 柱	基 本 施 策
Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進	①生涯学習機会の充実
	②生涯学習を支える人材の育成と活用
	③人権学習の推進
	④生涯学習の拠点となる施設の充実
	⑤図書館の充実と読書活動の推進
Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進	①安全・安心な施設整備、教育環境の確保
	②学校安全の推進
	③校種間連携・小中一貫教育の推進
	④教育機会の確保
	⑤学校における働き方改革の推進
	⑥教職員の資質能力の向上
Ⅴ 郷土の文化・伝統の継承と創造の推進	①文化財の保存
	②文化財の活用

主 な 取 組	担当課
◆生涯学習情報発信の充実	生涯学習課
◆多様な学習機会の提供	生涯学習課
◆生涯学習相談体制の充実	生涯学習課
◆産学公民の教育ネットワークの強化	生涯学習課
◆生涯学習指導者やボランティアの育成機会の充実	生涯学習課
◆ほうふ幸せます人材バンクの充実	生涯学習課
◆学習成果発表の機会づくり	生涯学習課
◆社会教育関係団体や各種ボランティア団体への支援	生涯学習課
◆市民ぐるみの積極的な推進	生涯学習課
◆推進体制の充実	生涯学習課
◆人権学習への支援	生涯学習課
◆公民館の整備・充実	生涯学習課
◆公民館活動の推進	生涯学習課
◆青少年科学館の充実	生涯学習課
◆図書館資料の質・量両面の充実	教育総務課
◆図書館利用者サービスの充実	教育総務課
◆図書館事業への市民参画の促進と活用	教育総務課
◆様々な教育文化施設との連携の推進	教育総務課
◆集会・文化活動及び広報活動の推進	教育総務課
◆「防府市子ども読書活動推進計画」に基づく子どもの読書活動の推進	教育総務課
◆学校施設の整備	教育総務課
◆学校施設非構造部材の耐震化	教育総務課
◆学校教材の整備	学校教育課
◆児童生徒の危機予測・回避能力の向上	学校教育課
◆機能する危機管理体制の確立	学校教育課
◆地域・家庭と連携した学校安全体制の整備	学校教育課
◆防災教育と防災管理を一体的に捉えた、学校防災の充実	学校教育課
◆感染症拡大防止体制の確立	学校教育課
◆幼保・小・中・高の校種間の連携強化	学校教育課
◆小・中9年間を見通した小中一貫教育の推進	学校教育課
◆経済的支援の充実	学校教育課
◆修学支援の充実	教育総務課
◆私立高等学校への支援	学校教育課
◆地理的条件の解消	学校教育課
◆教育支援の充実	学校教育課
◆業務の見直しと効率化	学校教育課
◆勤務体制の改善	学校教育課
◆学校支援人材の活用	学校教育課
◆教職員研修の充実	学校教育課
◆学校内の人材育成	学校教育課
◆文化財調査の推進	文化振興課
◆文化財保護活動への支援	文化振興課
◆文化財の保存・管理の充実	文化振興課
◆文化財の修復	文化振興課
◆情報発信の充実	文化振興課
◆文化財関係施設の整備と活用	文化振興課
◆文化財を活用した学習機会の提供	文化振興課
◆地域等の歴史文化継承への支援	文化振興課

令和4年度事業 評価結果

I 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

施策名	① キャリア教育の推進	13ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組とも順調に進められている。 各校で作成されているキャリア教育全体計画に基づき、児童生徒の発達段階に応じた職場体験や体験学習を各関係者と連携を図りながら実施できている。			
施策名	② 確かな学力の育成	15ページ	評価結果	努力
評価 コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 全国学力・学習状況調査の正答率の向上を図るため、4年度の調査から課題を抽出し、学力向上支援チームでサポートし、授業改善に取り組んでいく必要がある。			
施策名	③ 社会の変化に対応した教育の充実	16ページ	評価結果	努力
評価 コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 新たに、給食用牛乳パックのリサイクルを実践し、児童生徒の環境意識の醸成を図ることができた。英語教育については、コロナの影響によりALTを活用した授業数が減ったが、今後は派遣回数を増やし、ALTを効果的に活用し英語教育の充実を図る必要がある。			
施策名	④ ICT環境の整備と学習活動の充実	17ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組とも順調に進められている。 タブレット端末の整備は完了しており、ICT活用教育専門員及びICT活用教育推進員が学校に訪問し、授業への活用を推進している。また、教職員の活用技術を向上させるため、「チームDASH」での研修も充実している。			
施策名	⑤ 学校図書館の充実と読書活動の推進	19ページ	評価結果	努力
評価 コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 学校司書や学校図書館コーディネーターの配置により、学校図書館の利用促進を図っているが、読書をする児童生徒の割合が下がっており、児童生徒の読書習慣の定着に向けた取組を進める必要がある。			
施策名	⑥ 心の教育の充実	20ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 伝統芸能に係る継承について、コロナ等の影響により地域の方々との交流が持つことができなかつたため、交流する機会を回復し取り組んでいく必要がある。			
施策名	⑦ 生徒指導・相談体制の充実	21ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 不登校やいじめ等の相談が増加傾向にあるため、今後も指導員や相談員を派遣し、早期発見や早期対応を図っていく必要がある。			
施策名	⑧ 健康教育の推進	22ページ	評価結果	努力
評価 コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 しかし、山口県体力テストの総合評価が下がっており、児童生徒の体力向上・運動習慣定着に向けた取組を進めていく必要がある。			
施策名	⑨ 安全・安心な学校給食の推進	23ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組とも順調に進められている。 給食食材の安全性を確保し地産地消率も向上している。また、食物アレルギーに関する研修会を開催し、緊急時の対応を周知徹底するなど、安全・安心な給食を提供することができている。			

施策名	⑩ 特別支援教育の充実	24ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 特別な教育的支援を必要とする幼児、児童、生徒に対して、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な学習環境を提供することができた。			
施策名	⑪ 幼児教育の充実	26ページ	評価結果	努力
評価コメント	各取組については計画どおり実施できている。 小学校教育へのなめらかな接続を図るため、幼保・小連携教育研修会への参加を促し、より一層幼保・小の連携を進めていく必要がある。			

外部評価者の見	<p>①キャリア教育の推進、④ICT環境の整備と学習活動の充実、⑥心の教育の充実など、目標指標が高くなり、成果を確認できるものがある。その一方で、②確かな学力の育成、③社会の変化に対応した教育の充実、⑤学校図書館の充実と読書活動の推進などは、想定した指標を下回っている。原因や理由を分析・考察し、具体的な改善計画を立てるのがよいのではないだろうか。</p>
外部評価者の見	<p>コロナが5類感染症へ変更されたことにより、事業実施の回復による効果を期待したい。 不登校やいじめ等に関する相談が増加傾向にある点については、引き続き人材の確保と、きめ細やかな支援をお願いしたい。 読書活動の推進に関しては、タブレットを活用した電子書籍を取り入れる選択肢を加えてみてはどうだろうか。 給食に関して生産コストの高騰の中、地産地消にも努めながら安心安全なものを提供されていることが素晴らしい。</p>
外部評価者の見	<p>全ての施策の各取組について、概ね計画どおり実施できていることは、一定の評価ができる。しかしながら努力が必要な施策が11施策のうち5施策ある。これらの施策を如何に実施していくかが課題であり、今年度の取り組みにさらなる努力を行っていただきたい。</p>

Ⅱ 地域ぐるみの教育の推進

施策名	① 地域とともにある学校づくりの推進	27ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組とも順調に進められている。 家庭や地域と日頃から連携を図り、学校運営に参画する機会を増やすとともに、コミュニティースクールの取組を地域へ情報発信することにより、地域とともにある学校づくりを推進することができた。			
施策名	② 青少年の健全育成	28ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 青少年の健全育成のための各種活動について、関係機関や各団体及び地域の方々と協力しながら取り組むことができた。			

外部評価者の 意見	取組レベルではいずれもA評価となっていることからわかるように、確実に成果が出ている。ただし、目標指標に着目すると、基本施策①地域とともにある学校づくりの推進の「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」に肯定回答した小学生の割合は、基準の令和元年度を下回っている。令和7年度に目標値（小中とも80%）に到達するためにも、参画機会の強化、熟議を通じた願いや思いの共有化が推進されることを期待したい。
外部評価者の 意見	子供たちが、安全に安心して過ごせるような様々な活動の取組を実施している事を評価できる。 家庭内や学校だけではなく、地域にも見守ってくれる大人の存在、頼る為のツールがあることをもっと周知させて、気軽にそれらを利用することができる工夫をしていくことが大事ではないかと思う。子供たちが、悩んだ時にいつでもすぐに助けを求めることができる環境が整っていることが心の安定につながる。
外部評価者の 意見	コロナ禍で、なかなかコミュニティースクールや地域協育ネットの活動ができにくい中、それなりに活動されていたのは評価できる。地域の住民の方々の一層の参加により、地域とともにある学校づくりが推進されていくことを望む。 「子ども110番の家」の設置箇所数の減少が気になる。

Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

施策名	① 生涯学習機会の充実 30ページ	評価結果	努力
評価 コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 生涯学習意識の向上を図るため情報提供や学習機会の提供を行っているが、生涯学習機会の充実を図るため、積極的な生涯学習情報の提供や多様なニーズに応じた内容にしていく必要がある。		
施策名	② 生涯学習を支える人災の育成と活用 32ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 生涯学習に係るボランティアが活躍できる場を提供することにより、生涯学習機会の創出やボランティア活動の活性化を図ることができた。		
施策名	③ 人権学習の推進 33ページ	評価結果	努力
評価 コメント	各取組については概ね計画どおり実施している。 しかしながら、地域等での学習会の開催回数が伸び悩んでおり、より一層市民へ関心を促すため、各種媒体を使って周知を図り、人権学習の啓発に努める必要がある。		
施策名	④ 生涯学習の拠点となる施設の充実 34ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 コロナの影響による利用者の減少があるが、そうした中でも市民のニーズに沿った講座や企画展が開催できた。今後は、より魅力ある講座や展示等を行い、各施設の利用促進を図る。		
施策名	⑤ 図書館の充実と読書活動の推進 35ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組とも順調に進められている。 新たに電子図書館を導入するなど、利用者ニーズに応じたサービスが提供できた。また、読書活動を推進するため、各種教育施設との連携を図り各種イベントの実施や資料の提供を行うことができた。		

外部評価者の見 意	各取組は、概ね計画どおり実施できている。研修会、講演会等の実施回数、あるいは公民館利用者数、ソラール入館者数は伸び悩んでいるが、いわゆるコロナの影響もあったと思われる。今後の回復を期待したい。他方、「生涯学習指導者バンク」登録者の派遣回数が順調に伸びていることは注目に値する。防府市における生涯学習のエネルギーが感じられる。
外部評価者の見 意	コロナの影響があった中、実施内容について、市民の様々なニーズに応えようと様々な取組を実施している事が評価できる。今後もPR活動に努め、より多くの関心を集め活性化される事を期待する。
外部評価者の見 意	コロナの影響もあり、「聞いて得するふるさと講座（出前講座）」の利用件数が減少しているが、「生涯学習指導者バンク」登録者の派遣回数が増えているのは評価できる。もっと利用されるようPRを行ってほしい。 人権学習については、啓発方法を考慮して高めてほしい。

IV 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

施策名	① 安全・安心な施設整備、教育環境の確保	37ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 学校施設の長寿命化改良工事や非構造部材の耐震化工事について、計画どおりに着工することができた。学校教材の整備について、必要な備品の整備をすることができた。			
施策名	② 学校安全の推進	38ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組とも順調に進められている。 児童生徒の安全を確保するため、関係機関や地域等と連携し、安全教育や防災教育を実施することができた。			
施策名	③ 校種間連携・小中一貫教育の推進	40ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組とも順調に進められている。 各校種間での情報交換を積極的に行うことで、児童生徒の円滑な接続を図ることができた。			
施策名	④ 教育機会の確保	41ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組とも順調に進められている。 様々な困難や課題を抱えている家庭や児童生徒に対し、経済的支援や教育支援を行うことができた。			
施策名	⑤ 学校における働き方改革の推進	42ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 ICTの活用や部活動指導員の配置により、教職員の勤務状況の改善が図られた。			
施策名	⑥ 教職員の資質能力の向上	43ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組とも順調に進められている。 学力向上推進室長の訪問や研修会の実施など、教職員に必要なスキルや考え方を学ぶ場を提供することができた。			

外部評価者の意見	いずれの基本施策とも順調に推進されていることが見て取れる。中学校区内で、小学校と中学校の間の教育課程の接続、共通の目標設定がなされていることを評価したい。屋内運動場等の天井器具等の落下防止対策実施割合については着実に伸びているが、令和7年度には確実に目標値100%を達成されることを期待したい。その他、バリアフリー化、照明のLED化などについても、さらに進めていただければと思う。
外部評価者の意見	教育環境の質の高さは、改善策で行っている事を継続し、改善を加えることで、これからさらに結果が表れると思われる。今後の成果に期待したい。
外部評価者の意見	幼保・小・中・高の校種間の連携は必要であり、さらなる連携強化を望む。 学校における働き方改革の推進により、学校支援人材の活用で14名の部活動指導員により実施されているが、もっと多くの部活動があるので、充実させるとともに各種目団体との協議も必要と考える。

V 郷土の文化・伝統の継承と創造の推進

施策名	① 文化財の保存	44ページ	評価結果	努力
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施している。 しかしながら、市内の開発行為が増加しており、開発行為に係る発掘調査を優先する必要があるため、従来の文化財調査に遅れが生じている。開発行為に係る発掘調査と調整を図りつつ、優先順位を定めて文化財の調査を進める必要がある。			
施策名	② 文化財の活用	46ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施している。 SNS等の活用や「防府歴史・文化財読本」を刊行するなど、文化財についての情報発信を充実させることができた。施設利用者や学習機会の提供回数がコロナの影響により減少したが回復傾向にある。引き続き、魅力ある取り組みを企画し、観光分野と連携しながら、文化財関係施設の利用促進や学習機会の提供に努めていく必要がある。			

外部評価者の見	文化財の保存、活用とも、基本的には順調に各取組が進められている。市内で開発行為が増加したことが影響し、文化財調査に遅れが生じたとのことであるが、約2000点の調査を実施されたことは、悪くはないのではないかと。また、文化財指定地の保全のために、ヤギ除草や自走式草刈り機など、新しい手法を導入し、除草頻度をあげておられることもよいことであると思う。
外部評価者の見	情報発信の充実をさせた施策をしている事に評価できる。文化財郷土資料館の入館者増加は、NHK大河ドラマの影響が大きいと言えるだろう。文化財のPR手段としてYouTubeでの配信を行うにあたり、もっと再生回数が増えるような内容など工夫があると思われる。また、児童、生徒向けにインスタ、TikTokなど若い世代の多くが活用しているアプリなども積極的に取り入れ、ショートムービーに力をいれてみるのも一つの手法だと思う。 子どもたちに歴史、文化、伝統を幅広く知ってもらいたい。
外部評価者の見	昨年は、総合評価が全体的に高くなっていたぶん、今年度は下がってしまっている取り組みがあり、気が緩んでしまったのではないかと危惧する。気を引き締めて取り組んでほしい。 文化財保護活動に対する支援は、個人でも大変であるため団体のみではなく個人への支援があるといいと思う。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	① キャリア教育の推進	整理番号	I-①	
基本施策の方針	<p>○ 児童生徒一人ひとりが自らの生き方について考え、夢や志を育むよう、教育活動全体を通じて、発達段階に応じて系統的・計画的な指導を推進します。</p> <p>○ 学校と家庭、地域、産業界等との連携体制を強化し、小・中・高等学校等の全教職員がキャリア教育についての共通理解をさらに深めるとともに、体験活動等の一層の充実を図ります。</p> <p>○ 将来、直面するであろう様々な課題に柔軟に、かつ、たくましく対応し、社会人として自立していくための意欲や態度、能力を育みます。就学前の幼児教育から小学校教育へのなめらかな接続を図ります。</p>			
目標指標	「自分には、よいところがあると思う」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査より）	基準 令和元年度 小37.2% 中27.1%	実績 令和4年度 小38.3% 中38.3%	目標 (令和7年度) 小80% 中80%
	「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査より）	基準 令和元年度 小66.6% 中39.7%	実績 令和4年度 小59.5% 中42.5%	目標 (令和7年度) 小80% 中80%

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 計画的な進路指導の充実 【学校教育課】	<p>○ 職場見学や職場体験学習を実施した。 (小学校:17校 中学校:6校)</p> <p>○ 全小中学校でキャリア教育全体計画を作成し、基礎的・汎用的能力の育成を目指して、キャリア教育を系統的・計画的に実施した。</p>	到達度 事業効果 効率性 方向性 合計 評価	3 3 3 3 12 A
(2) 小・中・高連携によるキャリア教育の推進 【学校教育課】	<p>○ 市内共通のキャリアパスポート「夢ノート」を作成し、活用の仕方を各校で検討し実施した。</p>	到達度 事業効果 効率性 方向性 合計 評価	3 3 3 3 12 A
(3) 体験的な学習活動の推進 【学校教育課】	<p>○ 職場見学や職場体験学習を実施した。 (小学校:17校 中学校:6校)</p> <p>○ 「ほうふみらい塾」を開催し、青年会議所や地元企業、市役所職員の協力を得て、社会見学並びに体験学習を充実させた。</p>	到達度 事業効果 効率性 方向性 合計 評価	3 3 3 3 12 A
(4) 小・中の連携及び家庭・地域との連携強化 【学校教育課】	<p>○ 地域連携教育アドバイザーが、学校運営協議会で、学校支援や地域貢献等を中心とした地域連携のあり方について助言した。</p> <p>○ 学校・家庭・地域の連携方法について、見識を深めることにより「社会に開かれた教育課程」の推進を図った。</p>	到達度 事業効果 効率性 方向性 合計 評価	3 4 3 4 14 A
(5) 志を抱かせる教育の推進 【学校教育課】	<p>○ 小学校で「1/2成人式」、中学校で「立志式」を実施した。 (小学校:17校 中学校:11校)</p>	到達度 事業効果 効率性 方向性 合計 評価	4 4 3 3 14 A
総合評価	<p>想定以上である（優良）</p> <p>● 想定どおりである（良好・順調）</p>	想定より若干下回った（努力）	想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組とも順調に進められている。各校で作成されているキャリア教育全体計画に基づき、児童生徒の発達段階に応じた職場体験や体験学習を各関係者と連携を図りながら実施できている。		

課題及び今後の取組

<p>施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組</p>	<p>(1) ほとんどの生徒が自分にあった進路選択をすることができているが、進路未定のまま卒業した生徒もいる。全員が目標を定め、納得のいく進路に進むことができるよう、進路決定が危ぶまれる生徒に対して早い段階から相談を行う等、よりきめ細かなキャリア教育を推進していく必要がある。</p>
	<p>(2) 児童生徒一人ひとりが自らの生き方について考え、夢や志をはぐくむことができるように、小・中・高等学校等の全職員がキャリア教育について共通理解を図り、連携強化を目指す。</p>
	<p>(3) 職業観や勤労観の更なる育成を図る。また、職場見学・職場体験等の実施状況の把握に努め、商工会議所や、やまぐち教育応援団の協力も得ながら、市内外の各事業所におけるさらなる職業体験学習の充実を図る。</p>
	<p>(4) 学校と地域が目標やビジョンを共有し、熟議を行い、学校運営協議会で協議し、地域教育ネットの仕組みを生かして、実現を目指す。引き続き地域連携アドバイザーによる助言や研修会等を実施する。</p>
	<p>(5) 全ての小学校で1/2成人式、中学校で立志式を実施しているが、児童生徒にとって自分自身の志について、より深く考えられる機会となるよう、学校運営協議会委員や地域の方などを交え、地域と連携した1/2成人式・立志式を実施する。</p>

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	②確かな学力の育成	整理番号	I-②
基本施策の方針	○ 新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育内容の充実を図ります。 ○ 教科等横断的な視点やキャリア教育の視点に立った学力向上の推進体制を構築します。 ○ 学校・家庭・地域の連携・協働による教育活動を展開していきます。 ○ 校種間の連携を図った教育課程の編成を行います。		
目標指標	全国学力・学習状況調査の正答率の全国比	基準 令和元年度	実績 令和4年度
		小+1.3pt 中-1.5pt	小-2.1pt 中-0.7pt
		目標 (令和7年度) 全国平均以上	

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 児童生徒の実態に応じた指導計画の作成 【学校教育課】	○ 全国学力・学習状況調査とやまぐち学習支援プログラム「4月確認問題」を4月に、山口県学力定着状況問題を10月に実施し、結果分析を授業改善につなげた。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	4
		合計	13
		評価	A
(2) 指導体制の充実 【学校教育課】	○ 少人数加配教員として、小・中学校における提案型、小・中連携型、格差解消型、小学校専科(英語以外)、学力向上支援員等を延べ16校に配置し、活用した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(3) 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善の推進 【学校教育課】	○ 「振り返り」から得られた内容を元に、授業改善を行った。 ○ 各校において授業づくりに関する校内研修を実施した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	4
		合計	13
		評価	A
(4) 学習習慣の確立 【学校教育課】	○ 学校だより等で児童生徒の学習状況について周知し、家庭学習の充実について涵養を図った。 ○ 夏季休業中や放課後は、地域の方による学習支援を実施した。 ○ 全小・中学校にドリルアプリ等1人1台端末を活用した学習習慣の定着を促進させた。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
総合評価	想定以上である(優良)	●	想定より若干下回った(努力)
	想定どおりである(良好・順調)		想定より大幅に下回った(改善)
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 全国学力・学習状況調査の正答率の向上を図るため、4年度の調査から課題を抽出し、学力向上支援チームでサポートし、授業改善に取り組んでいく必要がある。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 各種調査実施後の分析をもとに課題を洗い出し、授業改善を行う。 個に焦点を当て、児童生徒個々の課題を次年度へ確実に引き継ぎ、学力向上プランの作成にも反映させることで継続的な課題の解決に努める。
	(2) 特に小中連携の視点を踏まえ、小学校専科(英語以外)の活用に合わせて、教科担任制の実施に努める。
	(3) 各校において地域課題等を踏まえた探究課題を設定することで「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。 引き続き「振り返り」に着目した授業改善を日常的に推進する。
	(4) コミュニティ・スクールの機能を生かし、引き続き学習保障の場への地域の方の協力を得る。 児童生徒が授業内容と関連した家庭学習を自律的に行えるよう、学習の仕方や生活習慣等を継続的に丁寧に教えていく必要がある。(「やまぐちっ子学習プリント」の活用を含め) 学習習慣の定着に向けたICTのさらなる活用を推進する。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	③社会の変化に対応した教育の充実	整理番号	I-③	
基本施策の方針	○ 外国語教育や国際交流などの異文化体験の機会を充実し、「語学力・コミュニケーション能力」「主体性・積極性」「異文化に対する理解」を兼ね備えたグローバル人材の育成を図ります。 ○ プログラミング的思考を育む教育を推進し、目的に応じた問題解決を行うことができる人材育成に取り組みます。 ○ 環境保全やより良い環境の創造のために、自主的・積極的に環境保全活動に取り組んでいくことができる人材育成に取り組みます。			
目標指標	CEFR A1レベル（英語検定3級）相当以上を取得している生徒の割合	基準 令和元年度	実績 令和4年度	目標 (令和7年度)
		16.1%	24.3%	40%
	英語（外国語）科の年間総授業数に対してALTを活用した授業時間数が20%以上の学校の割合	基準 令和元年度	実績 令和4年度	目標 (令和7年度)
		小74.0% 中74.0%	小94.1% 中45.4%	小100% 中100%

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 英語教育の充実 【学校教育課】	○ JETプログラムによるALT10人を小・中学校に派遣した。 ○ 小学校では外国語活動・外国語科を中心に、また中学校では全学年の英語の指導補助やレessonプラン作成等の教材研究補助を行った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(2) プログラミング教育の充実 【学校教育課】	○ ICT機器やロボット等を活用し、教科横断的にプログラミング教育を推進した。 ○ ICTを活用した教育活動の推進に向けて、プロジェクトチーム（チームDASH）の立ち上げを行った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(3) 環境教育の充実 【学校教育課】	○ 二酸化炭素の排出量削減を身近な生活の中で実践するなど、子どもたちの環境意識の醸成を図った。 ○ 給食用牛乳パックのリサイクルを実践し、環境問題を考え、リサイクル量に応じたトイレトペーパーを受け取ることにより、環境教育の充実を図った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
総合評価	想定以上である（優良）	●	想定より若干下回った（努力）
	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 新たに、給食用牛乳パックのリサイクルを実践し、児童生徒の環境意識の醸成を図ることができた。英語教育については、コロナの影響によりALTを活用した授業数が減ったが、今後は派遣回数を増やし、ALTを効果的に活用し英語教育の充実を図る必要がある。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 授業における児童生徒の英語による言語活動の充実に向けた授業改善について、研究を促進するとともに、ALTを効果的に活用することで、児童生徒の英語学習に対する意欲の向上や英語によるコミュニケーションの向上を図る。
	(2) 今後も、情報モラルについて、実効的な研修会の実施が望まれる。スマートフォンに関するトラブルから児童生徒を守るためには、学校教育だけでなく、市全体で保護者への啓発を図っていく必要がある。
	(3) 児童生徒が主体的に環境問題に関わろうとする態度と意識の高揚に向けて、学校や地域の実情に応じた具体的な体験活動の場を増やすため、総合的な学習の時間や各教科の枠を越えた教育課程への位置づけが更に必要である。地域人材や専門家の教育活動への参加も視野に入れたい。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	④ICT環境の整備と学習活動の充実	整理番号	I-④	
基本施策の方針	○ GIGAスクール構想の実現に向けて、ネットワーク通信環境の整備とタブレット端末の配備を行います。 ○ ICT機器が効果的に活用されるための環境整備や人的支援を行います。 ○ ICT機器を適切に運用するための人材育成を行います。 ○ 日常的にICT機器を活用した教育活動を行うことで、超スマート社会と言われるSociety5.0の時代を豊かに生き抜く力を育成します。			
目標指標	「小5、中1、中2のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」という設問に「ほぼ毎日」と答えた児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査より）	基準 令和元年度	実績 令和4年度	目標 (令和7年度)
		小10.2% 中8.3%	小43.6% 中58.6%	小80% 中80%

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 高速大容量ネットワーク通信環境の整備とタブレット端末の配備 【学校教育課】	○ 1人1台配布したタブレットを、授業等に活用することで、society5.0時代を豊かに生き抜く力の育成を図った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(2) 大型提示装置の整備 【学校教育課】	○ 各学校へ大型提示装置が適切に配置されているか調査を実施した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(3) ICT活用のための多様な人材活用 【学校教育課】	○ ICT活用教育専門員及びICT活用教育推進員による各小・中学校への定期訪問や、授業支援や校内研修の補助を行い、1人1台端末の活用推進を図った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(4) 教職員研修の充実 【学校教育課】	○ プロジェクトチーム「チームDASH」による会議を開催した。（対面・オンライン形式あわせて10回実施） ○ 各校の取組の事例紹介や講師招聘による研修を行った。 ○ 「DASH通信」を発行し、授業でのICT機器の活用や校務補助に関する情報を共有した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(5) 多様な学習活動の推進 【学校教育課】	○ 授業支援アプリや学習用コンテンツを活用して、教員が児童生徒の個別の学習状況を把握したり、学習支援を行った。 ○ 児童生徒自身が学習状況に応じた課題を自ら選び取り組む活動に、授業支援アプリや学習用コンテンツを活用した。 ○ 遠隔合同授業のような交流学习を行った学校もある。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
総合評価	●	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組とも順調に進められている。 タブレット端末の整備は完了しており、ICT活用教育専門員及びICT活用教育推進員が学校に訪問し、授業への活用を推進している。また、教職員の活用技術を向上させるため、「チームDASH」での研修も充実している。		

課題及び今後の取組

<p>施策の推進にあたって 改善すべき項目 今後の取組</p>	(1) 端末の耐用年数を考慮し、適切な時期に更新する必要がある。
	(2) 学級数の増減により、配備状況に問題がないか確認し、適宜配備する必要がある。また、耐用年数を考慮し、適切な時期に更新する必要がある。
	(3) 授業におけるICT機器の活用推進の補助に加え、校務の負担軽減に向けた取組をサポートする。
	(4) 校務支援ツールとしてのICT機器の活用拡充を目指す。
	(5) 今後も引き続き、授業支援アプリや学習用コンテンツについて情報提供等を行い、個別最適化された学習の充実、授業改善に努める。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑤学校図書館の充実と読書活動の推進		整理番号	I-⑤
基本施策の方針	○ 学校における質の高い読書活動を推進するとともに、望ましい読書習慣形成のための家庭への啓発に努めます。 ○ 学校図書館の機能充実を図るとともに、児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し、資料・情報の活用能力を高めます。			
目標指標	平日、読書をする児童生徒の割合（全国学習・学力状況調査より）	基準 令和元年度	実績 令和4年度	目標 (令和7年度)
		小82.5% 中71.5%	小74.2% 中62.1%	小90% 中90%

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 読書・学習活動の充実 【教育総務課・学校教育課】	○ 小・中学校ともに朝読書等の全校一斉読書を実施した。 ○ 読書や本の貸出だけでなく、各教科や総合的な学習の時間における調べ学習等でも学校図書館を利用した。 ○ 児童・生徒の興味・関心をひくような資料の展示・掲示を行った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(2) 関係機関との連携による学校図書館活動の充実 【教育総務課】	○ 学校図書館の選書会を小・中学校16校で開催した。 ○ 授業で使用する学校支援図書を貸出した。 貸出件数（733件） 貸出冊数（4,213冊）	到達度	3
		事業効果	4
		効率性	4
		方向性	3
		合計	14
		評価	A
(3) 学校司書の配置 【教育総務課】	○ 学校図書館コーディネーター（1人）、学校司書（13人）を配置した。 ○ 学校図書館コーディネーターを市内全小・中学校へ年2回派遣し、活動について助言した。 ○ 学校司書の資質の向上を図った。 市主催の学校司書研修の実施（年12回） 外部（県等）主催の学校司書研修への参加	到達度	3
		事業効果	4
		効率性	3
		方向性	3
		合計	13
		評価	A
総合評価	想定以上である（優良）	●	想定より若干下回った（努力）
	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 学校司書や学校図書館コーディネーターの配置により、学校図書館の利用促進を図っているが、読書をする児童生徒の割合が下がっており、児童生徒の読書習慣の定着に向けた取組を進める必要がある。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 今後も継続して児童生徒の資料・情報活用能力の向上や読書習慣の定着に向けた支援を行う。
	(2) 今後も、市立図書館と調整し、学校の開催希望に沿って、選書会を開催していく。
	(3) 学校及び図書館担当教諭との協働についてさらに進める。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑥心の教育の充実	整理番号	I-⑥	
基本施策の方針	○ 児童生徒の思いやりや規範意識、感動する心など、豊かな人間性や社会性を育むため、保護者や地域の方と育てたい子ども像を共有し、各学校の実態に応じて指導体制を工夫していきます。 ○ 児童生徒の心身の成長の過程に即し、学校の教育活動を通じて人権尊重の意識を高め、一人ひとりを大切にする教育を組織的・計画的に推進します。 ○ 他国の伝統や文化に触れるとともに、我が国の伝統や文化を尊重し、継承・発展させようとする態度の育成を図ります。			
目標指標	「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査）	基準 令和元年度	実績 令和4年度	目標 (令和7年度)
		74.1%	78.3%	80.0%

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 道徳教育の充実 【学校教育課】	○ 道徳の教科化に伴い、新学習指導要領に基づいた「考え、議論する道徳」に向けた授業をするよう、研修会等で指導助言した。 ○ 道徳教育推進校の研修だよりをタブレット端末で配信し、推進校の取組を共有した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	4
		合計	13
		評価	A
(2) 体験活動の充実 【学校教育課】	○ 学校・地域連携カリキュラムを活用し、地域人材の協力を得ながら特別活動や総合的な学習の時間等において体験活動を実施した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(3) 人権教育の充実 【学校教育課】	○ 県や市主催の人権教育研修会へ積極的な参加を促した。 ○ 防府市教職員研究紹介に、防府市内小・中学校での人権教育の取組事例や研究成果・課題等を掲載し、各校と情報共有した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	4
		合計	13
		評価	A
(4) 伝統や文化に関する教育の充実 【学校教育課】	○ 各中学校の文化活動を市民に紹介するとともに、文化活動の発表・交流の場をもつことができた。 ○ 伝統芸能に係る継承については、制限があったため、不十分であった。	到達度	2
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	11
		評価	B
総合評価	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）	
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）	
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 伝統芸能に係る継承について、コロナ等の影響により地域の方々との交流が持つことができなかったため、交流する機会を回復し取り組んでいく必要がある。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 今後の取組	(1) 道徳の教科化に伴い、新学習指導要領に基づいた「考え、議論する道徳」に向けた授業改善及び年間計画等の整備をさらに充実していく必要がある。
	(2) 地域の特色や地域協育ネットのしくみを生かして、自然体験活動や社会奉仕活動、交流体験活動の充実に努める。
	(3) 「山口県人権推進指針」にある分野別課題（小：11、中：12）を各学校（特に中学校）の人権教育全体計画及び人権教育年間計画に反映させる。
	(4) 中学校文化連盟への支援及び各中学校の文化活動の発表・交流の場をもつことにより、伝統や文化に関する教育の機会を創出する。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑦生徒指導・相談体制の充実	整理番号	I-⑦
基本施策の方針	○ 児童生徒一人ひとりの個性の伸長を図りながら、社会的な資質や能力、態度を育成し、豊かな自己実現を支援します。 ○ 学校における全ての教育活動を通じて、一人ひとりの児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力を育成します。		
目標指標	不登校児童生徒の出現率	基準 令和元年度	実績 令和4年度
		小0.8% 中4.3%	小1.3% 中6.7%
		目標 (令和7年度)	
		小0.7%以下 中3.8%以下	

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 開発的な生徒指導の推進 【学校教育課】	○ 生徒指導主任研修会、教育相談担当者研修会を開催し、生徒指導における現状と課題を認識した上で、指導方針の明確化や開発的な生徒指導についての共通理解を図った。 ○ いじめや暴力行為などの早期発見、早期対応のための情報提供が、各小・中学校のより効果的な生徒指導体制づくりにつながった。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	4
		方向性	3
		合計	13
		評価	A
(2) 学校内外と連携した問題行動への対応 【学校教育課】	○ 関係機関との情報・行動連携の強化を図り、生徒指導上の諸問題に迅速・適確に対応した。 ○ 生活・安心相談員による訪問支援を行った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(3) きめ細かな不登校対策の推進 【学校教育課】	○ 専任指導員を3名雇用し、不登校児童生徒に対しての学習指導を中心に支援を行った。 ○ 不登校やいじめ等の学校教育に関する相談が増加傾向にあるため、学校への助言や家庭への支援を行う生活・安心相談員を配置して、課題の早期発見や予防を行うなど、きめ細かな対応を行った。	到達度	3
		事業効果	4
		効率性	3
		方向性	3
		合計	13
		評価	A
(4) 緊急時等の学校への支援体制の充実 【学校教育課】	○ 学校だけでは解決が困難な問題行動等の発生時や事件・事故等による児童生徒の精神的動揺が激しい場合に、専門家や専門家チームを学校に派遣し、児童生徒の安全確保や心のケア、学校への助言・支援を行った。 ○ 重篤ないじめ問題等の解決に向けたいじめ調査委員会（第三者機関）の設置及び支援体制の整備に努めた。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
総合評価	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）	
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）	
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 不登校やいじめ等の相談が増加傾向にあるため、今後も指導員や相談員を派遣し、早期発見や早期対応を図っていく必要がある。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 今後の取組	(1) これからの児童生徒の問題行動は早い段階での関係機関との連携がこれまで以上に必要になってくる。家庭と学校の連携を基盤とし、小・中連携や地域・関係機関と学校が連携した生徒指導体制のさらなる強化が求められる。特に、児童生徒の共通の見通しを共有した生徒指導体制が必要となっている。
	(2) 子どもの教育に対する関心が低かったり、養育に対して不安をもっている保護者が増えており、学校が対応に苦慮するケースが多くなっている。今まで以上に関係機関と連携した保護者支援等、早期に対応する必要がある。
	(3) 専任指導員や在宅生徒学習指導員、生活・安心相談員が、様々なケースに、丁寧にもた連携して対応しているが、不登校児童生徒数は増加傾向にあるため、保護者への助言や学校への支援、連携等、今後より一層きめ細かな支援体制の充実が求められる。
	(4) 常日頃から児童生徒の問題行動等について、早期の情報共有を行う。学校・専門家が連携対応できる体制を整え、組織的に対応する。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑧健康教育の推進	整理番号	I-⑧
基本施策の方針	○ 自他の生命を尊重し、心身の健康保持に対する意識を高め、発達段階に応じた望ましい生活習慣を育みます。 ○ 健康で安全に行動できる自己管理能力と、たくましく生きるための体力を育みます。		
目標指標	山口県体カテストの総合評価がC以上の児童生徒の割合	基準 令和元年度	実績 令和4年度
		73.8%	68.8%
		目標 (令和7年度) 80.0%	

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 体力向上のための望ましい運動習慣の定着 【学校教育課】	○ 児童生徒の体力に関する課題の把握及び解決に向けて、小・中学校において新体カテストを実施し、各校独自の1校1取組を実施した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(2) 健康な生活を送ろうとする実践力を育てる指導の充実 【学校教育課】	○ 体カテストの分析結果を市ホームページにアップするなど、家庭・地域・関係機関との連携を強化し、指導の充実を図った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(3) 食に関する指導の充実 【学校教育課】	○ 食に関する指導研修会を開催し、具体的な実践にふれたり各校の課題を共有した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	4
		方向性	4
		合計	14
		評価	A
総合評価	想定以上である（優良）	●	想定より若干下回った（努力）
	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。しかし、山口県体カテストの総合評価が下がっており、児童生徒の体力向上・運動習慣定着に向けた取組を進めていく必要がある。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 今後の取組	(1) 令和4年2月から開始された「体力向上維新プロジェクト」に基づき、各校の児童生徒の体力向上・運動習慣定着に向けた体力向上レポートを作成し、計画的・継続的に実施する。 子どもの側に立った体育・保健体育授業づくりや、新体カテストに向けた目標の果たせ方など、工夫改善をしていく。
	(2) 健康な生活を送るためには、体力だけでなく心の健康の保持増進を図る必要があるため、今年度は学校保健計画を見直し、校内推進体制の充実を図る。
	(3) 引き続き、食育に関する企画を取り入れ、児童生徒の食育への関心を高める。栄養教諭による訪問指導や食育担当者の研修会を実施し、研修成果を各校に還元したりして、食育の充実を図る必要がある。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑨安全・安心な学校給食の推進	整理番号	I-⑨
基本施策の方針	○ 給食を通じて、学校・家庭・地域の連携による食の大切さを学ぶ食育を推進します。 ○ 地産地消を推進し、安全で質の高い給食を提供します。 ○ 食物アレルギーを有する児童生徒一人ひとりの安全な給食の確保に努めます。 ○ 給食調理場の施設・設備を改善し、安全・安心な給食を提供します。		
目標指標	地産地消導入率	基準 令和元年度	実績 令和4年度
		73.3%	73.7%
		目標 (令和7年度) 70%以上を維持	

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 食育の推進 【学校教育課】	○ 給食物資については、地場産食材を活用し、郷土料理・季節毎の行事食などを献立に取り入れた。 ○ 毎月、食に関する指導などを掲載した給食だよりを保護者へ配布し、食育の推進を図った。	到達度	3
		事業効果	4
		効率性	4
		方向性	4
		合計	15
		評価	AA
(2) 使用食材の安全性確保と地産地消の推進 【学校教育課】	○ 使用食材の産地・生産履歴を確認し、安全性の確保に努めた。 ○ 地場産食材の使用については、市場・卸業者等と連携を図り、学校給食県産食材利用拡大事業の県産100%メニューを年9回実施し、各学校の献立の情報を共有した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(3) 食物アレルギーへの対応 【学校教育課】	○ エピペン実習を含む食物アレルギーに関する研修会を各小・中学校で実施した。 ○ 養護教諭主体で、アレルギー症状が見られた際の緊急対応について周知徹底を図った。	到達度	3
		事業効果	4
		効率性	4
		方向性	4
		合計	15
		評価	AA
(4) 安全・安心な給食の提供 【学校教育課】	○ 各小学校及び学校給食センターの施設や器具の充実を図った。 ○ 11小学校と小野学校給食共同調理場及び防府市学校給食センターの給食調理を業務委託。残りの4小学校は直営で実施した。 【新】向島小学校については、学校給食センターからの給食提供に変更した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
総合評価	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）	
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）	
評価コメント	各取組とも順調に進められている。 給食食材の安全性を確保し地産地消率も向上している。また、食物アレルギーに関する研修会を開催し、緊急時の対応を周知徹底するなど、安全・安心な給食を提供することができている。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 食育の推進に向けて、栄養教諭・学校栄養職員の資質能力の向上を図る。
	(2) 地場産食材については、生産コストの高騰による価格の上昇や天候等により必要数量の確保が困難になるなどの課題があるが、納入業者との連携を密にし、献立を工夫することにより利用率の向上に努める。 食材の納品にあたっては、産地・生産履歴の確認に加え、納入時には品質や鮮度等に問題がないか確認し、安全性の確保に努める。
	(3) エピペンを所持している児童生徒が増加していることから、今後よりいっそう食物アレルギーに関する理解の共有や対応力の強化に努める必要がある。
	(4) 各学校の給食室や学校給食センターの設備等については、経年劣化が進んでいるため、計画的に更新する必要がある。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑩特別支援教育の充実	整理番号	I-⑩	
基本施策の方針	○ 特別な教育的支援を必要とする幼児、児童、生徒に対して、適切な合理的配慮の提供を行うとともに、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、個々の能力や個性を最大限に伸長するために、組織的・計画的な支援を行います。 ○ 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒及びその保護者に対して、教育・医療・福祉等との連携による支援の充実を図ります。 ○ 防府市の特別支援教育の取組等についての理解を得るために、適切な情報提供を行います。			
目標指標	通常の学級に在籍する障害のある児童生徒の「個別の教育支援計画」策定率	基準 令和元年度	実績 令和4年度	目標 (令和7年度)
		小66.6% 中42.8%	小71.0% 中96.0%	小100% 中100%

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 早期からの切れ目のない支援体制の充実 【学校教育課】	○ 幼稚園や保育園（所）の職員と小学校1年生担任等が協議できる幼保・小連携教育研修会を実施した。 ○ 各小学校単位で職員同士の連絡会や授業参観、子ども同士の交流を実施した。 ○ 小・中学校で生徒指導主任会を合同で実施した。 ○ 各中学校単位で連携を目的とした合同研修会を実施した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
評価	A		
(2) 特別支援教育の視点を取り入れた通常の学級の授業改善 【学校教育課】	○ 各校で行われている校内研修に加え、1～5年目の教員を対象とし、通常の学級での支援についての研修会を開催した。 ○ 学校支援員に対し、学習や生活面で行う支援の方法についての研修会を2回実施した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	4
		方向性	4
		合計	14
評価	A		
(3) 特別支援学級における教育の充実 【学校教育課】	○ 障害のある児童生徒、また、障害の可能性がある児童生徒に対して、必要な教育支援を講ずるために、市内の特別支援学級設置校の校長、担任教員などを委員とする防府市教育支援委員会を設置して、必要となる調査・検査・診断に基づいた教育支援を行った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
評価	A		
(4) 校内教育支援体制の充実 【学校教育課】	○ 特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対する学習支援、健康や安全の確保、運動会等の学校行事における支援を行う学校支援員を配置した。（16小学校に50人 8中学校に8人） ○ 市内3校にある幼児通級指導教室で指導した。（佐波小：90人 華浦小：42人 中関小：31人）	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	4
		合計	13
評価	A		
(5) 特別支援教育に関する広報活動の充実 【学校教育課】	○ 「防府市の特別支援教育」のチラシに加えて、未就学の保護者向けのチラシも作成し、保護者や幼稚園・保育園の先生に配付した。 ○ 療育に関わる方を対象に特別支援教育推進員が講演した。	到達度	3
		事業効果	2
		効率性	3
		方向性	3
		合計	11
評価	B		
総合評価	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）	
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）	
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 特別な教育的支援を必要とする幼児、児童、生徒に対して、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な学習環境を提供することができた。		

課題及び今後の取組

<p>施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組</p>	<p>(1) 県作成の「つながる子どもの育ちと学び」を基に、各小学校及び各幼稚園・保育園（所）でのスタートカリキュラムやアプローチカリキュラムを充実させる必要がある。 連携教育研修会での共通理解を踏まえ組織的に行うよう、指導する必要がある。 随時実施している就学相談後の情報交換や幼稚園・保育園・保育所等に研修会等の機会を活用し、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成の必要性等について、周知を図る。</p>
	<p>(2) 特別支援教育推進員等が授業参観や教育相談を行い、各校の実情に応じた支援の充実を図る必要がある。</p>
	<p>(3) 関係機関との連携による教育支援体制のより一層の充実を図り、特別な配慮の必要な児童生徒に対して、個別の教育支援計画や指導の計画を活用し、適切な指導・支援を行う。</p>
	<p>(4) 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の数や実態から、支援員の増員が強く望まれている。 幼児通級の増設が求められている。</p>
	<p>(5) ホームページに掲載するチラシの内容を見直し、より多くの人に必要な情報が提供できるようにする。</p>

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑪幼児教育の充実	整理番号	I-⑪	
基本施策の方針	○ 就学前の幼児教育から小学校教育へのなめらかな接続を図ります。 ○ 認定こども園・幼稚園・保育園（所）における保護者の経済的負担軽減や幼児教育の充実に努めます。			
目標指標	「幼保・小連携教育研修会」に参加する保育園・所、幼稚園の割合	基準 令和元年度	実績 令和4年度	目標 (令和7年度)
		76.0%	72.0%	100.0%

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 幼保・小の連携の推進 【学校教育課】	○ 各小学校で作成したスタートカリキュラムをもとに、生活科を中心とした学校生活に慣れるための指導を行った。 ○ 幼保・小連携教育研修会を開催した。（参加者47人） ○ 5歳児から1年生までの架け橋期の教育のあり方について協議し、各園、各校のアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムについて情報交換を行った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(2) 子育てに関する相談体制の充実 【学校教育課】	○ 子育てに関する相談を実施した。（5歳児発達相談会86人 就学相談80人） ○ 療育機関や発達に関する医療機関を紹介するなど、保護者の子育ての悩みや不安を解消したり、一人ひとりの実態に応じた支援を行った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(3) 乳幼児機関への支援の充実 【学校教育課】	○ 防府市幼稚園連盟の行う研究調査及び研修活動等に対し補助を行った。 ○ 幼児教育の無償化に伴う補助金を交付した。（上限：1人月額25,700円） ○ 私立幼稚園における子どもの読書活動を推進するため園児数等に応じて補助した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
総合評価	想定以上である（優良）	●	想定より若干下回った（努力）
	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組については計画どおり実施できている。 小学校教育へのなめらかな接続を図るため、幼保・小連携教育研修会への参加を促し、より一層幼保・小の連携を進めていく必要がある。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 今後も継続して研修や情報交換の機会をもつ。 関係小学校、幼稚園・保育園（所）同士で連携し、幼児・児童の交流や職員同士の参観、情報交換の場を充実させて、より効果的な連携を進めていく必要がある。
	(2) 相談が必要と思われる5歳児の参加を促すことが困難なことから、その保護者に対してどのようにアプローチし相談会への参加や支援につなげていくかが課題であり、引き続き園から日頃の生活の様子や、将来を見据えた早期の対応等を粘り強く説明していかなければならない。 年々相談者が増加しているため、医師や心理士等のスタッフの確保が課題である。
	(3) 公立幼稚園を有しない本市において、私立幼稚園への支援は幼児教育の充実に必要であり、引き続き支援を行う。

施策の柱Ⅱ 地域ぐるみの教育の推進

基本施策	①地域とともにある学校づくりの推進	整理番号	Ⅱ-①	
基本施策の方針	○ コミュニティ・スクールの充実を図り、保護者や地域住民が学校運営に参画する地域に開かれた信頼される学校づくりを進めます。 ○ 学校と家庭、地域が連携・協力し、地域ぐるみで子どもたちの育ちや学びを見守り、支援する取組を推進します。			
目標指標	「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」という設問に肯定回答した児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査より）	基準 令和元年度	実績 令和4年度	目標 (令和7年度)
		小59.6% 中43.9%	小54.6% 中55.0%	小80% 中80%

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) コミュニティ・スクールの円滑な運営 【学校教育課】	○ 保護者や地域住民等が学校に参集する機会を設定する学校が増加した。 ○ 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合が前年度に比べて増加し、コロナ禍以前に戻ってきている。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	4
		合計	13
		評価	A
(2) 地域協育ネットの推進 【生涯学習課】	○ 「防府まると学校のつどい」をオンラインで実施した。 ○ 「地域まると学校『防府モデル』」（マニュアル）を改訂し、参加者に配付して地域協育ネットの推進を図った。 ○ 地域連携に関するアンケートを実施し、その結果をもとに地域連携プロジェクト会議や戦略会議において今後の課題解決への取組について協議した。 ○ 放課後子ども教室を市内13地域で実施した。 （活動内容：工作、手芸、俳句、芋掘り、ニュースポーツ等）	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(3) 広報活動の充実 【学校教育課】	○ 各小・中学校が作成しているコミュニティ・スクールの取組を紹介するプレゼンテーションの見直しを行った。 ○ 華浦小学校においては、県主催の「GSプレゼンツ2022オンライン発表会」に応募し、多くの方に視聴してもらえるように取り組んだ。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
総合評価	想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	● 想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組とも順調に進められている。 家庭や地域と日頃から連携を図り、学校運営に参画する機会を増やすとともに、コミュニティ・スクールの取組を地域へ情報発信することにより、地域とともにある学校づくりを推進することができた。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 保護者や地域住民等の学校運営への適切な参画と連携の強化を図るため、熟議を通じた思いや願いの共有や学校運営協議会における協議の充実に努める。
	(2) 地域学校協働活動推進員、学校関係者の「地域協育ネットの主体者の一人である」という意識を一層高める必要がある。公民館・出張所会議や校長会の研修の場に参加し、地域協育ネットに関する情報を提供し、理解増進を図る。 放課後子ども教室について、教室間の連携がとりづらい状況にある。各教室のコーディネーター同士の情報交換会等を実施し、市内全ての教室が同じ足並みで運営できるようにするとともに、継続的な運営のために新規コーディネーターとなりうる人材の情報収集も行っていく。
	(3) コミュニティ・スクールの取組を紹介するプレゼンテーションを活用し、保護者会や参観日、学校運営協議会などにおいて、取組の様子を紹介していく。

施策の柱Ⅱ 地域ぐるみの教育の推進

基本施策	②青少年の健全育成	整理番号	Ⅱ-②
基本施策の方針	○ 関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や相談機能の充実を図るとともに、地域における青少年の非行・問題行動の防止活動や有害な環境の改善活動などの青少年育成活動を推進します。 ○ 青少年の自主性や社会性を培うため、青少年団体の活動を支援します。 ○ 子どもたちが安全に安心して過ごせる環境づくりとして、登下校時などに「不審者からの声かけ」等の被害から、子どもたちの身を守るための避難場所となる「子ども110番の家」の設置を推進します。		
目標指標	「子ども110番の家」設置箇所数	基準 令和元年度	実績 令和4年度
		612箇所	514箇所
		目標 (令和7年度) 650箇所	

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 家庭教育機能の強化 【生涯学習課】	○ 青少年育成センターに設置している「ヤングテレホン防府」による電話相談や来所相談を実施した。(62件) ○ 「家庭の日」運動の啓発を行った。 ・「家庭の日」親子ふれあいイベントの開催(年6回:山口短期大学と協働) ・啓発用品(ポスター・チラシ・のぼり旗)を作製、配布 ・標語の募集(優秀作品をのぼり旗やチラシなどに掲載) ・市広報及び「まなぼうやだより」、広報紙「はばたき」へ関連記事の掲載 ・家庭教育支援チームによる子育て学習会や赤ちゃんとのふれあい体験を実施	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(2) 非行・問題行動の防止活動や有害な環境の改善活動 【生涯学習課】	○ 街頭巡視活動を実施した。 青少年育成センター指導員等による巡視活動や、防府警察署との合同巡視、各地区補導員(16地域152名)による巡視・補導活動を実施(延べ401回実施 1,476人参加) ○ こども環境クリーンアップ活動を実施した。 有害図書類等の設置状況及び深夜営業施設の調査 携帯電話端末等の販売店における立入調査の実施	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(3) 青少年活動の推進 【生涯学習課】	○ 青少年関係団体を支援した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(4) 子どもの安全・安心対策 【生涯学習課】	○ 「子ども110番の家」の新規登録をホームページ等で周知した。 ○ 防府警察署の生活安全課に「子ども110番の家」の設置箇所を情報提供して、協力を依頼した。 ○ 「子ども110番の家」のポール・のぼり旗の購入や交換した。	到達度	3
		事業効果	4
		効率性	3
		方向性	3
		合計	13
		評価	A
総合評価	想定以上である(優良)	想定より若干下回った(努力)	
	● 想定どおりである(良好・順調)	想定より大幅に下回った(改善)	
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。青少年の健全育成のための各種活動について、関係機関や各団体及び地域の方々とは協力しながら取り組むことができた。		

課題及び今後の取組

<p>施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組</p>	<p>(1) 「ヤングテレホン防府」について、相談受理件数の中に無言電話が何件か含まれているが、これは単なるいたずら電話ではなく、「相談したかったが勇気が出ずにためらった」などの理由で電話を切った相談者も含まれているのではないかと推測される。少しでも相談しやすくするために、各種広報紙等で親しみやすく・分かりやすく周知をしていく必要がある。また、近年問題視されている「ヤングケアラー問題」についても周知を図っていく。</p> <p>「家庭の日」親子ふれあいイベントは、より高い相乗効果が得られるよう、協働相手の特色や強みを踏まえ、きめ細やかな工夫を取り入れる必要がある。</p> <p>家庭教育支援チームは、人員の増加と活動の幅を広げていくことを目指しているが、PTAをはじめとする関係機関・団体に呼び掛けを行うことなどを通じて、持続可能な仕組みづくりを図る必要がある。</p>
	<p>(2) 補導員の巡視が非行防止のための抑止力になるよう、引き続き関係機関・団体との連携を強化し、青少年の健全育成に努める。また、新型コロナウイルス感染症の5類引き下げに伴い、まずはコロナ禍以前と同水準の活動を目標に各地域で取組を行う。</p>
	<p>(3) 継続した活動の支援とともに週末及び長期休業における体験活動を実施する団体のさらなる拡充を図る必要があるため、該当する団体等に対し制度の周知を図っていく。</p>
	<p>(4) 「子ども110番の家」の拡充については、ホームページでの発信・各地区への協力依頼を引き続き行っていく。登録件数は着実に増えており、今年度も引き続き周知を呼びかけていく。</p>

施策の柱Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

基本施策	①生涯学習機会の充実	整理番号	Ⅲ-①
基本施策の方針	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民の生涯学習意識を高めるため、必要とされる情報を適切に提供する仕組みの充実を図ります。 ○ 生涯にわたって、現代社会が抱える課題から発生するニーズに応じた、様々な学習活動を支援するための学習機会を提供します。 ○ 高度化・多様化した学習ニーズに対応するため、生涯学習専門員による生涯学習相談コーナーの一層の充実に努めます。 ○ あらゆる機会にあらゆる場所において学習することができる生涯学習社会の実現に向け、防府市生涯学習推進協議会、行政、市民、民間団体、企業、大学等の連携による、教育ネットワークの強化を図ります。 		
目標指標	「聞いて得するふるさと講座（出前講座）」の利用件数	基準 令和元年度	実績 令和4年度
		117件	112回
		目標 (令和7年度)	130件

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 生涯学習情報発信の充実 【生涯学習課】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民向けの講演会や講座などの情報を集約し、市民に生涯学習情報を提供した。 ○ 聞いて得するふるさと講座を実施した。（112件） 	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(2) 多様な学習機会の提供 【生涯学習課】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各年齢期に応じた子育て講座を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・就学期子育て学習会（15小学校各1回） ・思春期子育て講座（9中学校各1回、1,881人） 	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(3) 生涯学習相談体制の充実 【生涯学習課】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生涯学習専門員による学習相談やボランティア講師の紹介や生涯学習情報を提供した。（対応件数：821件） ○ 情報紙の発行により生涯学習情報を提供した。 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども向け生涯学習情報紙「まなぼうやだより」年3回発行 ・ボランティア・協働情報紙「まなぼら」年4回発行 	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(4) 産学公民の教育ネットワークの強化 【生涯学習課】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3次防府市生涯学習推進計画（学ぼうやプラン3）に基づく施策や取組状況の点検及び次年度に向けての見直しを行った。 	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
総合評価	想定以上である（優良）	●	想定より若干下回った（努力）
	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	<p>各取組については概ね計画どおり実施できている。 生涯学習意識の向上を図るため情報提供や学習機会の提供を行っているが、生涯学習機会の充実を図るため、積極的な生涯学習情報の提供や多様なニーズに応じた内容にしていく必要がある。</p>		

課題及び今後の取組

<p>施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組</p>	<p>(1) 実施後のアンケートや報告書を参考に市民の多様なニーズに応える魅力的な講座となるよう、引き続き各課に呼びかけを行い、メニューの追加や内容の充実に努める。</p> <p>(2) 引き続き、就学期子育て学習会を就学时健康診断において実施し、併せて、家庭教育支援チームによる学習の機会を提供していく。また、持続可能な取組としていくために、各学校PTAとも連携した取組を推進していく。</p> <p>思春期子育て講座については、学校や地域の特色に応じた講座を開催する。未実施の学校に対して実施を促していく。</p> <p>(3) 近年、学習相談が増加しているとともに学習ニーズが多様化しており、関係機関・団体とのきめ細やかな連携を図ることで円滑な相談対応に努める。</p> <p>(4) 会議において、「費用対効果の検証のため、事業実施状況報告書に事業費を明記した方が良い」、「事業評価の基準が不明確である」という意見があった。こうした意見を踏まえ、事業実施状況報告書に事業費（決算見込額）の項目を加えるとともに、評価項目を到達度、事業効果、効率性の3つに細分化し、評価点数を基にした定量評価を行うことで、評価基準の明確化を図るための見直しを行う。</p>
-----------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

施策の柱Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

基本施策	②生涯学習を支える人材の育成と活用	整理番号	Ⅲ-②
基本施策の方針	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生涯学習に関するボランティア活動の研修の場を継続して提供し、ボランティアや生涯学習指導者・支援者の育成機会の充実を図ります。 ○ ボランティア活動を支援するとともに、生涯学習フェスティバル、放課後子ども教室等のボランティアが活躍できる場を提供します。 ○ 社会教育関係団体等の活動を支援します。 ○ 地域人材の「ほうふ幸せます人材バンク」への登録を進め、学校の授業や地域で開催される講座等での活用を促進します。 		
目標指標	「生涯学習指導者バンク」登録者の派遣回数 (年間)	基準 令和元年度	実績 令和4年度
		164件	194件
		目標 (令和7年度)	200件

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 生涯学習指導者やボランティアの育成機会の充実 【生涯学習課】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生涯学習ボランティア養成講座を開催した。(参加者数延べ31人) ○ ほうふ幸せます人材バンク研修会を開催した。(参加者数28人) 	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(2) ほうふ幸せます人材バンクの充実 【生涯学習課】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導者バンク登録件数 160件 ○ 支援者バンク登録件数 1,121件 ○ 指導者バンク登録者による学習会を開催した。(194回) ○ 夏季学ぼうやセミナーを開催した。(35講座：受講者数延べ620人) ○ わくわく学び塾を開催した。(4講座：参加者数延べ48人) ○ ほうふ幸せます人材バンク研修会を開催した。(参加者数28人) 	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(3) 学習成果発表の機会づくり 【生涯学習課】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第29回生涯学習フェスティバルを開催した(来場者数 2,428人) 28の個人・団体による講演や講座を実施し、ルルサスわっしょい広場で発表会・セレモニーを実施した。 ○ 各公民館にある学ぼうやギャラリーを活用し、展示等を行った。 	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(4) 社会教育関係団体や各種ボランティア団体への支援 【生涯学習課】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中学校PTA連合会や防府ユネスコ協会などの社会教育関係団体等へ助成した。 	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
総合評価	想定以上である(優良)	想定より若干下回った(努力)	
	● 想定どおりである(良好・順調)	想定より大幅に下回った(改善)	
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。生涯学習に係るボランティアが活躍できる場を提供することにより、生涯学習機会の創出やボランティア活動の活性化を図ることができた。		

課題及び今後の取組

<p>施策の推進にあたって</p> <p>改善すべき項目</p> <p>今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生涯学習ボランティア養成講座では参加者が再現できるように、より身近で実践的な内容を検討する必要がある。 人材バンク研修会では、参加者が活動の幅を広げていくことができるように、情報交換の時間を設けるなど、内容の充実を図る。 (2) 指導者バンクについて、新規登録者の確保が必要である。 支援者バンクについて、地域毎の登録者数に偏りがあるため、公民館・出張所会議等の際に再周知を行い、登録につなげていく。 (3) 生涯学習フェスティバルについて、より充実した学習成果発表の場となるように、フェスタ・アスピラートと同時開催するなど、集客の工夫をする必要がある。 学ぼうやギャラリーの展示内容の充実に努める。 (4) 社会教育関係団体の自主性を尊重しながら、引き続き、運営や活動の支援を行う。
-----------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

施策の柱Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

基本施策	③人権学習の推進	整理番号	Ⅲ-③
基本施策の方針	○ 防府市人権学習推進市民会議と連携し、基本的人権尊重の視点に立った人権学習を推進するため、様々な学習機会を提供します。 ○ 地域社会の実情や課題、市民の学習ニーズを踏まえた学習内容等の充実に努めます。 ○ 市民一人ひとりの人権が尊重される地域づくりに向けた市民の自主的な人権学習を支援します。		
目標指標	市内で開催する人権学習に関する研修会、講演会等の回数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和4年度
		77回	66回
		目標 (令和7年度)	
		100回	

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 市民ぐるみの積極的な推進 【生涯学習課】	○ 防府市人権学習推進市民会議と連携して、さまざまな人権問題をテーマに講師を招聘し、市民セミナー・講演会を実施した。 【実施事業】 市民会議総会（講演会） 参加者：164人 市民セミナー（4回） 参加者：延べ194人 人権講演会 参加者：160人	到達度	2
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	11
評価	B		
(2) 推進体制の充実 【生涯学習課】	○ 人権学習推進委員を対象に、情報交換や研修会を実施した。 【実施回数】 推進委員研修会：3回 参加者：延べ113人 ○ 市内4か所の教育集会所で、各種教養講座を実施した。 【実施講座】 編み物、ペン習字・実用書道、ペン習字（子ども）、珠算（子ども）、手話	到達度	2
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	11
評価	B		
(3) 人権学習への支援 【生涯学習課】	○ 地域や学校、企業、団体等で実施される学習会に、人権学習指導員及び社会教育主事を派遣、又は人権学習啓発のための視聴覚教材の貸出を行った。 【派遣回数】 人権学習指導員の派遣 66回 【貸出実績】 視聴覚教材（DVD・ビデオ） 39本	到達度	2
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	11
評価	B		
総合評価	想定以上である（優良）	●	想定より若干下回った（努力）
	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施している。 しかしながら、地域等での学習会の開催回数が伸び悩んでおり、より一層市民へ関心を促すため、各種媒体を使って周知を図り、人権学習の啓発に努める必要がある。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 県人権推進指針に沿って分野別人権課題の啓発に取り組むに当たり、市広報や、市ホームページ、企業会報誌への折込チラシ等広報活動により、人権学習への市民の関心を高めて参加につなげていく。
	(2) 引き続き、人権学習推進委員を対象とした人権学習研修を行い、委員の資質向上を図る。また、講座については、受講生の増加を図るために、より一層、情報発信を行い周知していくことが必要である。
	(3) ホームページ等で市民の人権学習への関心を高めていくとともに、引き続き、指導員の派遣や視聴覚教材等の貸出により、地域や学校、企業、団体等が実施される人権学習活動への支援を行っていく。

施策の柱Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

基本施策	④生涯学習の拠点となる施設の充実	整理番号	Ⅲ-④	
基本施策の方針	<p>○ 公民館は、地域における住民の学習ニーズに総合的に応える施設であり、社会教育主事等の配置による専門職員の充実に努めるとともに、地域課題に対応した学習機会の提供や、地域情報の収集、学習情報の提供に努めます。</p> <p>○ 公民館は、地域コミュニティ活動を支援する施設としての役割や、地域の課題を解決するための学習を行う施設としての役割が期待されることから、地域活動の拠点施設としての機能の充実に努めます。</p> <p>○ 青少年科学館（ソラール）では、本市の科学教育普及活動の拠点施設として、創造性豊かな青少年の育成と市民の科学技術に関する知識の普及及び啓発を図ります。</p>			
目標指標	公民館利用者数（年間：延べ人数）	基準 令和元年度	実績 令和4年度	目標 （令和7年度）
		204,726人	191,845人	220,000人
	ソラール入館者数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和4年度	目標 （令和7年度）
		59,172人	29,671人	80,000人

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 公民館の整備・充実 【生涯学習課】	○ 公民館の経年劣化による施設設備の修繕を随時実施した。 【新】5月5日小野公民館供用開始（移転・建替え） 8月1日ルルサス文化センター開館 牟礼公民館の移転・建替えに向けて用地の取得及び基本・実施設計に着手した	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(2) 公民館活動の推進 【生涯学習課】	○ 家庭教育学級・女性学級・高齢者教室に官公庁や民間の団体等に講師を招聘し、多様な学習の場を提供した。 ○ 各教室について、公民館だよりやホームページ等で情報を発信した。 ○ 各教室がより魅力的な事業内容となるよう研修会を実施した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(3) 青少年科学館の充実 【生涯学習課】	○ 年間を通して各種科学教室や企画展を開催するとともに、小・中学校での理科教室も支援した。 ○ 青少年の科学技術に対する夢と創造力を育み、創造性豊かな人間形成を図ることを目的として発明クラブの活動を行った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
総合評価	想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	● 想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 コロナの影響による利用者の減少があるが、そうした中でも市民のニーズに沿った講座や企画展が開催できた。今後は、より魅力ある講座や展示等を行い、各施設の利用促進を図る。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 緊急度の高い順に補修や改修を行う。 牟礼公民館の令和7年度中の供用開始に向けて、事業を進めていく。
	(2) 発信する情報の充実に努める。また、受講生のニーズに沿った魅力ある講座を提供できるように努める。
	(3) 企画展や常設展示など、館全体の魅力を向上させる工夫を行っていく。 緊急度の高い順に補修や改修を行い、また、開館30周年に向けて、大規模な修繕等をしっかりと計画を立てて進めていく。

施策の柱Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

基本施策	⑤図書館の充実と読書活動の推進	整理番号	Ⅲ-⑤
基本施策の方針	○ 「防府市立防府図書館資料収集要綱」に基づき、本市の特色を生かした資料の収集や、利用者ニーズに対応した幅広い資料の充実・整備を図ります。 ○ 多様な利用者ニーズに的確に対応するため、利用者サービスの質的向上を図るとともに、市内全域サービスやWebサービスのさらなる充実に努めます。 ○ 市民との協働を推進し、図書館ボランティアの養成・育成を図ります。 ○ 学校図書館をはじめ他の図書館や教育文化施設・機関等との相互協力・連携を推進します。		
目標指標	図書館館外個人貸出者数(年間：延べ人数)	基準 令和元年度	実績 令和4年度
		141,371人	138,034人
		目標 (令和7年度) 147,000人	

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 図書館資料の質・量両面の充実 【教育総務課】	○ 「防府図書館資料収集要綱」に基づき適正な選書・収集を実施した。 新刊図書10,882冊、雑誌303誌、新聞19紙購入 【新】電子図書館を導入した(R4.10～) 電子書籍冊数1,120冊(うち郷土資料165冊)	到達度	4
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	13
		評価	A
(2) 図書館利用者サービスの充実 【教育総務課】	○ 図書館協議会にて図書館サービス振興基本計画に沿った利用者サービスの検証を行った。(年3回) ○ 移動図書館車の運行(2週間/回 6コース、37ステーション) ○ イベント等への移動図書館車の派遣(3か所) ○ 図書館ホームページのリニューアル 【新】SNSの「Instagram」への掲載開始(R4.12～)	到達度	4
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	13
		評価	A
(3) 図書館事業への市民参画の促進と活用 【教育総務課】	○ 子ども読書フェスティバルや図書館まつりを開催した。 ○ 図書館ボランティア養成講座を開催した。(4回開催 延べ52人参加) ○ 防府図書館ボランティア連絡会議を開催した。(参加者15人)	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(4) 様々な教育文化施設との連携の推進 【教育総務課】	○ 学校図書館への学校支援図書の貸出や選書会の開催を支援した。貸出件数(733件) 貸出冊数(4,213冊) ○ 他の社会教育施設等への講師の派遣やイベントを開催した。 ○ 青少年科学館ソラールや山頭火ふるさと館等との関連展示や合同企画を行った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(5) 集会・文化活動及び広報活動の推進 【教育総務課】	○ 話題の物事や物故者に関する資料を展示した。 月例資料展示35回 ミニ資料展示51回 ブラウジングコーナー壁面等の展示12回 ○ 特別企画として直木賞作家「今村翔吾のまつり旅」講演会を開催した。(参加者359人)	到達度	4
		事業効果	3
		効率性	4
		方向性	3
		合計	14
		評価	A
(6) 「防府市子ども読書活動推進計画」に基づく子どもの読書活動の推進 【教育総務課】	○ 子ども向けのイベントを開催した。 防府市子ども読書フェスティバル・ビブリオバトル(年2回) 子ども図書館員(年2回)・マナーアップキャンペーン さんさんおはなし会、クリスマスおはなし会(全12回) 読書感想文教室(年2回)・読書感想文のヒント(ソラール連携) ○ 防府市図書館を使った調べる学習コンクールを実施した。(応募作品：小学生27作品、中学生9作品)	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A

総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組とも順調に進められている。 新たに電子図書館を導入するなど、ニーズに応じたサービスが提供できた。また、読書活動を推進するため、各教育施設と連携しイベントの実施や資料提供を行うことができた。			

課題及び今後の取組

<p>施策の推進にあたって</p> <p>改善すべき項目</p> <p>今後の取組</p>	(1) 閉架書庫の空き容量が減少しているため、資料の保存と廃棄の検討を行う。
	(2) 図書館のイベントやサービスについて、更なる周知を行う。
	(3) ボランティアの高齢化に伴い新たなボランティアの育成が必要である。
	(4) 学校司書や司書教諭との更なる連携を図る。
	(5) 展示に関しては、概ね計画通りに開催できているため、今後も継続していく。
	(6) 調べる学習コンクールについては、市内の児童生徒にチラシの配付などを行っているが、出品者数が伸び悩んでいる。新たなPRが必要である。

施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

基本施策	①安全・安心な施設整備、教育環境の確保	整理番号	Ⅳ-①
基本施策の方針	○ 学校施設の耐震化や老朽化施設の整備を図り、安全・安心な学校づくりを推進します。 ○ 少人数学級化など、時代の変化を見据え、誰でも利用しやすく環境に配慮した、ゆとりと潤いのある施設や効果的な授業の実現に向けた学校教材、環境を整備し、質の高い教育環境を提供します。		
目標指標	小中学校屋内運動場等の天井器具等の落下防止対策実施割合	基準 令和元年度	実績 令和4年度
		34.5%	57.0%
		目標 (令和7年度)	
		100.0%	

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 学校施設の整備 【教育総務課】	○ 長寿命化改良工事 桑山中学校北校舎（R5年度まで） ○ 長寿命化改良工事実施設計業務 華浦小学校校舎、佐波中学校屋内運動場	到達度	2
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	4
		合計	12
		評価	A
(2) 学校施設非構造部材の耐震化 【教育総務課】	○ 屋内運動場照明器具・体育器具等落下防止対策工事 牟礼南小学校、華城小学校、牟礼中学校屋内運動場 ○ 校舎等外壁改修工事 牟礼南小学校南校舎 ○ 校舎等外壁改修調査・設計業務 華西中学校校舎	到達度	4
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	13
		評価	A
(3) 学校教材の整備 【学校教育課】	○ 学習生活に必要な教材備品や、新規に開設する特別支援学級の備品などの整備を行った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	4
		合計	13
		評価	A
総合評価	●	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 学校施設の長寿命化改良工事や非構造部材の耐震化工事について、計画どおりに着工することができた。学校教材の整備について、必要な備品の整備をすることができた。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 長寿命化計画に沿って着実に実施できるよう、予算確保するとともに、照明のLED化や省エネ改修等のカーボンニュートラルへの取組や、バリアフリー化、良質な学習環境の整備などに対応できるよう改修計画を実施する必要がある。
	(2) 非構造部材の耐震化として、校舎外壁、屋内運動場の体育器具等の落下防止対策工事を計画的に進めてはいるが、より多くの学校の工事も進められるよう、必要な財源の確保に向けて関係部署と協議を進める。
	(3) 小・中学校で使用する教材備品、教材用品の整備は、教育の質の向上のために不可欠であり、更に充実していく必要がある。今後も学校と協議し、さらに計画的な整備を行う。

施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

基本施策	②学校安全の推進	整理番号	Ⅳ-②	
基本施策の方針	○ 学校内外の生活の中で自他の生命を尊重し、安全に行動できるための危機予測・回避能力を育みます。 ○ 学校において、機能する危機管理体制を構築するとともに、地域ぐるみの学校安全体制を整備します。			
目標指標	家庭・地域と連携した防災訓練を実施した学校の割合	基準 令和元年度	実績 令和4年度	目標 (令和7年度)
		小70.6% 中45.5%	小76.4% 中54.5%	小100% 中100%

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 児童生徒の危機予測・回避能力の向上 【学校教育課】	○ 新一年生を対象に交通教室を実施した。(防府警察署や安全協会と連携) ○ 警察と連携し、少年安全サポーターを配置して巡回訪問等を行うなど、学校安全体制の整備を支援した。 ○ 各小・中学校で実施している不審者対応訓練に少年安全サポーターとスクールガードリーダーが参加し、指導助言を行った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(2) 機能する危機管理体制の確立 【学校教育課】	○ 県や市が主催する各種安全教育研修会へ積極的に参加した。 ○ 市内全ての小・中学校で、学校から保護者への携帯メールによる情報配信システムを整備した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(3) 地域・家庭と連携した学校安全体制の整備 【学校教育課】	○ 各校のスクールガード組織の再構築や、みまもり隊との緊急連絡体制の確認を行った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(4) 防災教育と防災管理を一体的に捉えた、学校防災の充実 【学校教育課】	○ 各小・中学校において、地震や津波、豪雨災害等の自然災害や火災を想定した避難訓練を実施した。 ○ 避難訓練を地域と合同に実施する学校が増えた。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	4
		合計	13
		評価	A
(5) 感染症拡大防止体制の確立 【学校教育課】	○ 日常的な感染予防対策を各小・中学校で実施した。 ○ 最新の感染状況や対策についての情報を確実に学校に伝達して、各学校ではそれに基づいた対策を実施した。	到達度	4
		事業効果	3
		効率性	2
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
総合評価	想定以上である(優良)		想定より若干下回った(努力)
	● 想定どおりである(良好・順調)		想定より大幅に下回った(改善)
評価コメント	各取組とも順調に進められている。児童生徒の安全を確保するため、関係機関や地域等と連携し、安全教育や防災教育を実施することができた。		

課題及び今後の取組

<p>施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組</p>	<p>(1) 不審者等が増加傾向にあることから、各学校での日常の取組を充実させ、さらに児童生徒の自己管理能力と危機管理能力を向上させていくことが重要である。</p> <p>今後も、1人1台タブレット端末にKYT資料をアップロードし、危機予測・回避について主体的に学ぶことができるようにする。</p> <p>円滑な警察等の関係機関はもとより、家庭・地域との連携を深める必要がある。</p>
	<p>(2) 学校の危機管理マニュアル等の見直しを図るとともに、防犯研修会や様々な災害を想定した防災危機管理研修会への参加等、様々な安全教育研修会への参加を継続的に促進していく必要がある。</p>
	<p>(3) 今後も、継続的な地域の関係団体や保護者との連携による、学校安全体制のより一層の整備が求められる。</p> <p>未然に事件事故を防ぐために地域・保護者・みまもり隊の意見を取り入れながら、学校安全に関する指導内容を具体的に作成しなければならない。</p>
	<p>(4) 基本的な訓練を定期的に行うことはできているが、様々な時間や状況を想定した実践的な訓練については十分とは言えない。</p> <p>地域と連携した訓練が増えているので、これからもコミュニティ・スクールの機能を生かしながら、地域と連携したより実践的な訓練の実施について協議していく。</p>
	<p>(5) 各学校において、今後も健康状態の把握、適切な換気の確保及び手洗い等の手指衛生や咳エチケットの指導を継続していく。</p>

施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

基本施策	③校種間連携・小中一貫教育の推進		整理番号	Ⅳ-③
基本施策の方針	○ 幼保・小・中・高の校種間の連携を強化することにより、円滑な接続やつまずきの予防に努めます。 ○ 児童生徒一人ひとりの健やかな成長のために学校・家庭・地域が連携し、小・中学校9年間を見通した小中一貫教育を推進します。			
目標指標	中学校区で、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った小・中学校の割合	基準 令和元年度	実績 令和4年度	目標 (令和7年度)
		小64.3% 中64.3%	小90.9% 中90.9%	小100% 中100%

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 幼保・小・中・高の校種間の連携強化 【学校教育課】	○ 幼保・小連携教育研修会等の機会を利用し、小1プロブレム解消のための情報交換の必要性について理解を深めた。 ○ 中1ギャップへの対策として、中学校教員による小学校への出前授業や小学生の中学校体験入学などなめらかな接続のための工夫をした。 ○ 中・高の連携を図るため、学校相互の授業参観等を行い、相互の情報交換の場を設けた。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
評価	A		
(2) 小・中9年間を見通した小中一貫教育の推進 【学校教育課】	○ 小・中学校の合同研修会等の機会を通して、児童生徒の姿をもとにした共通指導事項を整理し、共通実践した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
評価	A		
総合評価	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）	
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）	
評価コメント	各取組とも順調に進められている。 各校種間での情報交換を積極的に行うことで、児童生徒の円滑な接続を図ることができた。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 今後も継続して、幼保・小・中・高の連携を図るための機会をもつとともに、小中高英語教育連携事業の好事例を参考にしながら、情報交換に努め、具体的な取組について協議していく。 小学校においては、中1ギャップの解消の一助とするため、実施可能な教科において教科担任制を取り入れることを促進する。 (2) 小・中学校合同研修会及び学校運営協議会において、共通指導事項の検証や学校課題解決に向けた協議をすることで情報を共有し、より充実した教育活動を推進する必要がある。
-------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

基本施策	④教育機会の確保	整理番号	Ⅳ-④
基本施策の方針	○ 家庭の経済状況による教育格差の改善に向け、経済的支援を通じて、保護者負担を軽減するとともに、意欲・能力のある者への学習機会を確保します。 ○ 家庭環境等の要因による教育格差の解消や地理的制約のある児童生徒に対する就学支援に努めるとともに、様々な困難や課題を抱えている家庭・児童生徒への教育支援を行います。		

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
		到達度	事業効果
(1) 経済的支援の充実 【学校教育課】	○ 幼児教育の無償化に伴う補助金を交付した。 (上限：1人月額25,700円) ○ 経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対して、就学援助費を支給した。 【新】児童の身体的負担の軽減と保護者の経済的負担の軽減を図るため、新入学生に通学用かばんを贈呈した。	到達度	3
		事業効果	4
		効率性	3
		方向性	3
		合計	13
		評価	A
(2) 修学支援の充実 【教育総務課】	○ 奨学金及び高校入学準備金の貸付を行った。 新規奨学金(R5奨学生)貸付⇒申請者14人のうち12人に貸付 (うち9人は定住促進奨学金貸付者) 新規高等学校入学準備金貸付 ⇒ 11人に貸付 ○ 奨学金制度について、従来の方法に加え下記の周知を行った。 【新】市内の新成人(18歳)全員へ奨学生募集チラシの送付 市公式SNS(フェイスブック)へ奨学生募集記事の掲載	到達度	4
		事業効果	3
		効率性	4
		方向性	3
		合計	14
		評価	A
(3) 私立高等学校への支援 【学校教育課】	○ 私立高等学校の振興充実を図るため、高等学校を設置する学校法人を対象に補助金を交付した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(4) 地理的条件の解消 【学校教育課】	○ 野島小・中学校で実施する「茜島シーサイドスクール」に渡船通学する児童生徒の渡船費用を半額補助した。 ○ 小規模特認校制度により、富海小・中学校へ公共交通機関で通学する児童生徒の公共交通機関での通学に要する費用の半額を補助した。	到達度	3
		事業効果	4
		効率性	3
		方向性	3
		合計	13
		評価	A
(5) 教育支援の充実 【学校教育課】	○ 障害のある児童生徒や障害の可能性のある児童生徒に対して、教育支援委員会による適切な教育支援を行った。 ○ 就学援助費補助金等による経済的な援助を行った。 ○ 生活・安心相談員による教育相談、不登校児童生徒に対しては、在宅生徒学習指導員による指導、教育支援センター「オアシス教室」による通室指導を実施し、学習支援を行った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	4
		合計	13
		評価	A
総合評価	想定以上である(優良)	想定より若干下回った(努力)	
	● 想定どおりである(良好・順調)	想定より大幅に下回った(改善)	
評価コメント	各取組とも順調に進められている。 様々な困難や課題を抱えている家庭や児童生徒に対し、経済的支援や教育支援を行うことができた。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 教育の機会均等の趣旨にのっとり、経済的な負担を抱えている保護者に対して今後も継続して必要な支援を行うとともに、より広く周知ができるよう努める。
	(2) 大学等の在学生への効果的な周知方法について検討する。 より活用しやすい制度への見直しを図る。
	(3) 私立高等学校の振興充実のため、今後も継続して必要な支援を行う。
	(4) 「茜島シーサイドスクール」事業で野島小・中学校に通学する児童生徒や、小規模特認校に指定する富海小・中学校または向島小学校へ通学する児童生徒の保護者負担軽減のため、今後も継続して必要な支援を行う。
	(5) 関係機関との連携を強化することにより個に応じた教育支援体制の充実を図る。 教育的支援の必要な児童生徒・保護者に対し、学校と連携しふさわしい支援を行う。

施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

基本施策	⑤学校における働き方改革の推進	整理番号	Ⅳ-⑤
基本施策の方針	○ 学校行事、各種会議、部活動等の学校業務の見直しを図るため、全国の好事例の紹介、各学校の現状把握と成果・課題の洗い出し、改善策についての協議、指導、進行管理等を行います。 ○ 防府市グループウェアや学校支援人材の活用促進により、業務の効率化を図ります。 ○ 学校担当主事制を活用し、各校の状況について把握し、課題の解決に向けた相談体制を強化します。		

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 業務の見直しと効率化 【学校教育課】	○ 防府市グループウェア（ミライム）やタブレット端末を活用して、ペーパーレスや情報共有を行い、会議時間等の削減を図った。 ○ 学校教育課が主催する会議や研修等は、ICTを活用したオンラインで行う機会を増やした。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(2) 勤務体制の改善 【学校教育課】	○ 時間外、在校等時間の確実な把握を徹底し、校長研修会や教頭研修会で時間外在校時間の削減を指導した。 ○ 留守番電話の設定時間を各校の実情に合わせて設定できるようにして、学校の負担軽減を図った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(3) 学校支援人材の活用 【学校教育課】	○ 14名の部活動指導員を中学校6校に配置した。 ○ 部活動指導員配置部の部活動顧問の時間外在校等時間について調査を行った。 ○ 高い指導力を持った指導員が、指導法の教授や練習内容の提案を行い、指導経験の少ない顧問の良い研修の機会となった。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
総合評価	●	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 ICTの活用や部活動指導員の配置により、教職員の勤務状況の改善が図られた。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) ICTを活用した業務の見直しと効率化を一層進めるため、他市町や市内の学校の先進的な取組を、校長研修会等で周知する。 オンラインでの会議や研修等を、今まで以上に取り入れていく。
	(2) 働き方改革現状分析ツールを全校で活用し、客観的な資料に基づいた勤務体制の改善と、教職員の意識改革を図る。
	(3) 成果目標として配置部活動顧問の時間外在校時間を1ヶ月45時間を超えない範囲内とする。 配置校において状況調査を実施し、成果目標に対する到達状況の把握に努める。 新規指導員の登録者数を増やすため、市広報やホームページを活用した広報活動に努める。

施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

基本施策	⑥教職員の資質能力の向上	整理番号	Ⅳ－⑥
基本施策の方針	○ 教職員のキャリアステージに応じて計画的・継続的に資質能力の向上が図れるよう、研修体制を工夫していきます。 ○ 教職員が見通しをもって自ら成長していけるよう、防府市が求める教師像を明確に示し、意識の高揚を図ります。		

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 教職員研修の充実 【学校教育課】	○ 人材育成研修（計11回）を実施し、延べ295名の教職員が参加し、キャリアステージに応じた研修を行った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(2) 学校内の人材育成 【学校教育課】	○ 小・中学校の全ての教職員が「防府市人材育成シート」を閲覧し、活用できるようにグループウェアで提示した。 ○ 学力向上推進室長が全ての小・中学校を訪問し、学校経営や授業づくりについて指導・助言した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
総合評価	○	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組とも順調に進められている。 学力向上推進室長の訪問や研修会の実施など、教職員に必要なスキルや考え方を学ぶ場を提供することができた。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 引き続き、キャリアステージに応じた研修会を開催し、必要なスキルや考え方を学ぶ場を提供する。 研修について業務時間外の開催となるため、開催の時期や時間帯を改善する。
	(2) 山口県教員育成指標に基づいて「防府市人材育成シート」を更新する。 学力向上推進室長によるスーパーバイザー訪問の際に、管理職や授業者から聴き取りをして、各校の課題を明確にした上で、的確な指導・助言を行う。

施策の柱V 郷土の文化・伝統の継承と創造の推進

基本施策	①文化財の保存	整理番号	V-①	
基本施策の方針	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化財の所在場所や性質を明らかにする把握調査を行って記録し、未指定を含む文化財情報の充実を図ります。 ○ 文化財を継承するために、価値を損なわない適切な修理を行います。 ○ 文化財保護に関わる地域住民・活動団体との連携を強化します。 ○ 保存する部分の価値を見定めるため、発掘調査等の文化財調査を計画的に進めていきます。 			
目標指標	文化財郷土資料館入館者数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和4年度	目標 (令和7年度)
		2,120人	2,425人	3,700人
	英雲荘入館者数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和4年度	目標 (令和7年度)
		3,511人	2,563人	4,700人

主な取組【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 文化財調査の推進 【文化振興課】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 未指定文化財の悉皆調査として、満願寺所有資料を調査し、秋山家所蔵資料の調査と合わせ、約2000点の調査を実施した。 ○ 下右田遺跡北東部にて官衙関連遺構の解明に向けた調査と、周防国分寺二ノ門修理に伴い遺構確認調査を実施した。 ○ 開発等に伴う発掘調査を実施した。 (確認調査(11か所)、本調査(4か所)、緊急調査(6か所)) ○ 発掘調査報告書を刊行した。(2冊) (令和3年度国庫補助事業調査、周防国衙跡既往成果) 	到達度	2
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	11
		評価	B
(2) 文化財保護活動への支援 【文化振興課】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防府史談会の文化財保護啓発活動に対して補助金を交付した。 ○ 各地の郷土史研究団体で講演を行うとともに調査や活動における協力を行った。 	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(3) 文化財の保存・管理の充実 【文化振興課】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化財指定地の保全について、ヤギ除草や自走式草刈り機など新たな手法を導入して除草頻度を大幅に増やし、文化財指定地活用につなげた。 ○ 指定文化財の現地説明板を修繕した。(5か所) 	到達度	3
		事業効果	4
		効率性	3
		方向性	3
		合計	13
		評価	A
(4) 文化財の修復 【文化振興課】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 周防国分寺二ノ門の修復事業に着手した。 ○ 文化財所有者から経年劣化による破損の報告が多くあり、状況を把握したうえで、応急措置が可能なものは対処方を提案した。 	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
総合評価	想定以上である（優良）	●	想定より若干下回った（努力）
	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	<p>各取組については概ね計画どおり実施している。 しかしながら、市内の開発行為が増加しており、開発行為に係る発掘調査を優先する必要があるため、従来の文化財調査に遅れが生じている。開発行為に係る発掘調査と調整を図りつつ、優先順位を定めて文化財の調査を進める必要がある。</p>		

課題及び今後の取組

<p>施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組</p>	<p>(1) 令和5年度で10年に渡った満願寺の現地調査を終了し、報告書作成に取り掛かる。市内一円での開発等が増加しており、調査を待たせる状態が続いている。発掘調査出土品、民俗資料、歴史資料等を文化財郷土資料館等に保管しているが、飽和状態に近づいているため新たな保管場所を検討する必要がある。</p>
	<p>(2) 防府史談会が行う文化財の保存活用のための調査研究等の活動に対し、今後も継続して支援する。 郷土史研究団体について今後も相談に応じるとともに調査活動に協力する等、研究成果の刊行を支援していく。</p>
	<p>(3) 指定地の保全について、除草の頻度やタイミングを検討し、指定地のより良い環境維持と活用につなげる。</p>
	<p>(4) 文化財所有者が現況把握を行いながら、大きな破損がない段階で必要な小修理を施す手順の構築が急務となっている。 文化財所有者が本格修理に向けて動き出すために必要な技術者の確保・資金の捻出等について相談に応じ、所有者や行政だけでなく、クラウドファンディングやボランティアを取り込む方策などを提案していく。</p>

施策の柱V 郷土の文化・伝統の継承と創造の推進

基本施策	②文化財の活用	整理番号	V-②	
基本施策の方針	○ 地域の誇りである文化財が、地域づくりに活用できるように、文化財情報の公開を推進します。 ○ 文化財に関わる情報が人とアイデアをつなぐ媒体となるような体制づくりをめざします。			
目標指標	【再掲】 文化財郷土資料館入館者数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和4年度	目標 （令和7年度）
		2,120人	2,425人	3,700人
	【再掲】 英雲荘入館者数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和4年度	目標 （令和7年度）
		3,511人	2,563人	4,700人
	地域で開催される文化財に関する講座等への 講師派遣回数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和4年度	目標 （令和7年度）
		36回	24回	45回

主な取組 【担当課】	令和4年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 情報発信の充実 【文化振興課】	○ ケーブルテレビで、市指定無形民俗文化財民謡浜子うたのPRを行い、放送後、YouTubeでも配信した。 ○ 英雲荘では、庭園の夜間ライトアップ等、「三度の月見」と題した観月会を開催した。 ○ 文化財に対する外部団体の助成事業の情報を、市ホームページで紹介した。 【新】「防府歴史・文化財読本」の刊行 市内全中学生及び小中学校教員へ配付	到達度	3
		事業効果	4
		効率性	3
		方向性	4
		合計	14
		評価	A
(2) 文化財関係施設の整備と活用 【文化振興課】	○ 文化財郷土資料館の年間入館者（展示観覧者含む）は2,425人で昨年の843人から大幅に増加した。 ○ 文化財郷土資料館に案内員2名を設置した。 ○ 企画展「源平から鎌倉へ～そのとき防府は～」を開催した。（4/23～10/2、観覧者計1188人） ○ 常設展をリニューアルオープンした。（10/8～3月末 観覧者495人） ○ 青少年科学館ソラールとのコラボ企画を実施 ソラール企画展で資料館スポット展示（観覧者289人）、夏休み期間の出張展示、「桑山お宝さがし」企画の実施（参加者18人）	到達度	3
		事業効果	4
		効率性	3
		方向性	3
		合計	13
		評価	A
(3) 文化財を活用した学習機会の提供 【文化振興課】	○ 学校や公民館への講師派遣は24件で、昨年の11件から倍増した。 ○ 学校等との連携を図り、インターンシップ4校、校外地域学習6校を受け入れ、オンライン授業2校4クラスを実施した。 ○ 時代衣装の試着体験会を開催した。（参加 28組88人） ○ 親子バスツアーを開催した。（参加 5組12人）	到達度	4
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	13
		評価	A
(4) 地域等の歴史文化継承への支援 【文化振興課】	○ 郷土史会と連携して学校での体験行事（タコツボを使った親子で卒業記念品づくり）を実施した。 ○ 無形民俗文化財の継承活動に対する補助を行った。（11団体）	到達度	2
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	11
		評価	B
総合評価	想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	● 想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施している。 SNS等の活用や「防府歴史・文化財読本」を刊行するなど、文化財についての情報発信を充実させることができた。施設利用者や学習機会の提供回数がコロナの影響により減少したが回復傾向にある。引き続き、魅力ある取り組みを企画し、観光分野と連携しながら、文化財関係施設の利用促進や学習機会の提供に努めていく必要がある。		

課題及び今後の取組

<p>施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組</p>	<p>(1) 情報の発信手段について、市のSNS等を活用し、タイムリーな情報をより興味を引く手法で、きめ細かく発信していく必要がある。 「防府歴史・文化財読本」を毎年中学新生に配布していく。 英雲荘がもつ歴史文化的要素にふさわしい活用方法やイベントを、観光振興課等と協力し創出していく。</p>
	<p>(2) 青少年科学館ソラールとの連携充実に加えて、県立博物館との連携展示およびイベントを行う。 スポット展示コーナーでタイムリーな短期展示など行い、さらに資料館の活性化を図る。</p>
	<p>(3) 文化財の保護継承のために子供たちへしっかりと価値を伝えていくことが重要である。 夏休み体験イベントの開催や、歴史遺産に現地で触れる機会、出張講座など、学校との連携も含め引き続き積極的に実施していく。</p>
	<p>(4) 焼物を使った文化体験は、世代を問わず多様なニーズに応えるポテンシャルがある。 焼物技術保持者と協力し、楽しみながら学べる体験メニューの開発に取り組む必要がある。 無形民俗文化財伝承活動への補助金制度をしっかりとPRし、各団体へ積極的かつ継続的な活動を促していく必要がある。また、各団体の事業内容の精査、対象団体や事業の再検討が必要である。</p>

■ 学識経験者の総評

【学識経験者】

山口大学大学院 教育学研究科 佐々木 司 教授

防府市教育委員会の「教育行政点検・評価報告書（対象：令和4年度事業）」について意見を述べさせていただきます。

防府市の教育行政は、各施策が堅実に執り行われ、成果をあげていると認められる。このことを評価したい。施策の柱のもとに基本施策があり、そのもとに主な取組が配置されているわけだが、この体系的な重層構造もわかりやすいものであり、点検・評価にもそれが活かされている。

それぞれの取組は、到達度、事業効果、効率性、方向性の4観点から評価され、総合評価を与えられている。令和4年度の総合評価は、その前年度である令和3年度の総合評価とほぼ同じであり、そこからは防府市の着実な取組を見て取ることができる。

教育行政の点検・評価に関して気になった点を強いてあげるとすれば、基本施策の目標指標と、（基本施策のもとに存在している）取組の評価、そして総合評価が必ずしも合致していないことである。

例えば、施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進 の基本施策⑤学校図書館の充実と読書活動の推進の目標指標は、「平日、読書をする児童生徒の割合」である。この目標指標が、いわゆるKPI(Key Performance Index)になると思われるが、令和元年度の基準値と比較すれば令和4年度の実績は小・中学校とも低下している。読書をする児童生徒の割合が下がったことで、総合評価は「想定より若干下回った（努力）」となっている。ところが、主な取組（3つ）をみると、その評価はいずれも「A」である。平日に読書をする児童生徒の割合が下がっている原因を分析・考察したうえで、それを克服し読書活動を推進する具体策を「主な取組」のなかに入れ、その達成度等を実評価すれば、目標指標、主な取組、（主な取組の）評価がより体系的なものとしてつながっていくのではないだろうか。

以上、意見を述べたが、防府市教育委員会は、教育行政点検・評価の報告書自体を改善しておられ、本年度のものは昨年度にも増して充実したものになっている。点検・評価のあり方それ自体を向上させようと努めておられるわけである。そのことに敬意を払うとともに、本市教育の今後のさらなる発展を念願する次第である。